# 令和４年度第７回茅ヶ崎市市民活動推進委員会
# 会議録

| | |
|---|---|
| 議題 | （1） 令和５年度実施市民活動推進補助事業公開ヒアリング及び公開プレゼンテーション |
| 日時 | 令和５年３月１８日（土）　９時３０分から<br>１６時３０分 |
| 場所 | 市役所本庁舎４階　会議室３～５ |
| 出席者氏名<br><br><br><br><br>欠席者 | 町田有紀　坂田美保子　市川歩　船山福憲　雫石剛<br>海野誠　山田修嗣<br>事務局４名（市民自治推進課）<br>三浦課長、小西課長補佐、服部副主査、柿澤主任<br><br>大畑朋子　菅野敦　紀伊智裕 |
| 会議の公開・非公開 | 公開 |
| 傍聴者数 | ３４名 |

○事務局
　皆さま、おはようございます。
　本日はお忙しい中、また足元が悪い中お越しいただきまして誠にありがとうございます。
　ただいまより、令和５年度実施市民活動推進基金補助事業公開ヒアリングを開会いたします。
　それでは早速でございますが、開会にあたりまして、佐藤光茅ヶ崎市より一言ご挨拶申し上げます。

○市長
　おはようございます。
　早朝から足元の悪い中お越しいただきまして誠にありがとうございます。
　また日頃より茅ヶ崎市民のために様々な事業を展開していただきまして心から御礼申し上げます。
　今までに200以上の事業がプレゼンされ、170を超える事業に補助金を交付しておりますけども、正直、時々わからなくなる時があるのです。
　皆さまの事業に対する補助金なのか。私たちがやるべきことを皆さまにお願いするための補助金なのか。本来ならば、市がやるべきことを皆さまにお願いをしている。
　そういった意味では、これは補助金ではなくて、委託金だろうと。
　ですから、今日プレゼンをしていただいて、様々な思いを我々行政にぶつけていただきたいと思っております。
　また、スタート事業は発表時間が５分間。ステップアップ事業は８分間。
　職員が私に説明するときは、事前説明で30分かかって、協議でまた30分かかっているのに、今日は５分と８分で発表をしなければならないというのは、なかなかシビアな世界だと思っております。
　これからは職員の説明も５分、８分で発表してもらおうと。それくらいの思いであれば皆さまの気持ちもじかに伝わってくるのかなと、このように思っております。
　今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局
　ありがとうございます。
　恐縮ではございますが、佐藤市長は次の公務のため、これをもちまして退席させていただきます。
　それでは続きまして、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員をご紹介いたします。

よろしくお願いいたします。

○山田委員長
皆さまおはようございます。
山田と申します。
委員会からご挨拶を申し上げたいと思いますが、冒頭の司会からの説明ですとか、市長の挨拶をちょうだいして、一通り内容と、今日やるべきことについて紹介がありましたので、委員の紹介と、今日の主な目標を申し上げて挨拶と代えさせていただきたいと思っております。
私たちは市民活動推進委員会に所属しております。
それぞれ母体から選出、あるいはご自身で立候補された方で構成されている組織です。
主に様々な市民活動についての外殻的な検討をしている組織です。
そうした関係から、正式名称は市民活動推進基金補助事業というのですけれども、この制度の運用について市に提案をさせていただく立場で、今日は皆さまの発表を聞かせていただきます。こういう活動でしたら、ぜひ取り組んでいただきたい、市内で活動を展開していただきたいという、推薦をするために私たちは参加をさせていただいています。
ですので審査というと大変申し訳ないので、聞かせていただいて、市にプッシュする役割、ぜひ採用してくださいということをお願いする立場として関わっていきたいと考えております。
この制度はこれまでに多くの事業を採択してきたと先ほどのお話にも出て参りました。こうしたことが市内で展開されることで、ますます茅ヶ崎市が暮らしやすい素敵な町に変わっていくということです。委員としてはぜひうまく協力をさせていただく形で次の展開につなげられるように質問、それからコメントをさせていただきながら、お昼までの時間を皆さまと一緒に過ごしたいと考えております。
スタート支援は8事業報告があると聞いていまして、午後もステップアップ支援がありますので、聞いていただける方はぜひご参加いただきたいと思います。
事前に皆さまからの提案書を拝見し、あるいは事前質問を検討させていただく中で、非常に面白い点、それから素晴らしいと感じられる点がたくさんありました。スタート支援の事業ですから、もっとこのような工夫をしてみたらいいのではないか、もっとこのように考えてみたらいいのではないかということをそれぞれ委員の経験や知見から考え、話し合い、検討して参りました。
そして、大変な企画書作成作業をお願いして参りましたけれども、そうしたところを一つ一つ取り組んでいく中で、茅ヶ崎市の市民活動がますます盛り上がっていくよう期待しています。このような市民活動のサポート、この事業を進めて参りた

いという決意で、いつも活動をさせていただいております。
　この意味では今日のコメントについても、皆さまの立場とは少し違った観点など、いろんなお話が出てくると思います。そうしたことをうまく皆さまの活動の中に取り込んでいただき、良い市民活動に発展するために、工夫すべきと考えられるアイデアを交換する時間となれば大変幸いでございます。
　それでは委員を紹介申し上げたいと思います。
　原田委員です。この委員会の副委員長を担当してくださっています。
　続いて、町田委員です。
　続きまして坂田委員です。
　続きまして市川委員です。
　続きまして船山委員です。
　続きまして雫石委員です。
　続きまして海野委員です。
　このメンバーで本日担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局
　また本日オブザーバー参加として、市民活動サポートセンターのスタッフの皆さまにもご参加いただいております。よろしくお願いいたします。
　それでは本日のヒアリングの流れについて簡単にご説明申し上げます。
　お配りしております冊子の 1 ページを御覧いただけますでしょうか。
　本日これから 12 時半ごろまでのお時間で、令和 5 年度に実施する市民活動推進補助事業のスタート支援に申請がありました 8 事業についてヒアリングを行います。
　まず時間配分について説明します。申請団体の皆さまより、5 分以内で事業についての説明をお願いいたします。時間管理について申し上げますと、終了 1 分前にベルを 1 度鳴らします。次に予定時間の 5 分を経過したところで 2 度ベルを鳴らします。説明が終わりましたら、市民活動推進委員会の皆さまから質問やアドバイスなどを行います。こちらは 8 分程度予定しております。説明中に 2 度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。
　皆さまの思いがこもった事業を短い時間でアピールしていただくことは大変かと思うのですけれども、ご協力いただきますようお願いいたします。
　また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質問を最後の質疑とさせていただきます。よろしくお願いいたします。
　皆さまの事業の評価につきましては、市民活動推進委員会が企画書等と本日の発表、質疑応答の内容により行って参ります。
　評価項目、採点の基準につきましては、冊子の 2 ページ、3 ページの通りとなっております。

満点の60％を採択相当と判断する目安としまして、予算金額の枠内で順位に応じて採否を検討して参ります。

令和5年度の実施事業につきましては、市民活動推進委員会による評価結果を受けまして、最終的に市長が判断して決定して参ります。

採択、不採択等の結果につきましては、事業提案団体の皆さまに書面等でご連絡する他、市ホームページ等でも一般に公開して参ります。

また、本日のヒアリングの様子につきましては、市ホームページ、広報紙等に活用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、この補助金は市民活動推進基金、愛称が市民活動げんき基金を原資とする補助金となっております。げんき基金につきましては市民の皆さまからのご寄附で成り立っております。

冊子6ページ7ページにございますように、個人の方、企業の方から寄付をいただき、この補助に充てております。

また、令和5年度につきましては、ゴルフダイジェスト・オンライン様、茅ヶ崎でゴルフ場を運営してる企業から企業版ふるさと納税という制度を使ってご寄附をいただいております。

こうしたご寄付がなくなればこの補助金についてはいずれなくなってしまうこととなっております。会場内には、募金箱を用意しておりますので、ご来場の皆さまにおかれましても、ご協力いただけると幸いです。

それでは次第の順番に各事業のヒアリングを開始いたします。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

では、一団体目です。発表のご準備をお願いできますでしょうか。

ARTノTANEMAKiさんお願いします。

○ARTノTANEMAKi

私たちARTノTANEMAKiは、幼児教育、あとは小学校だったりとか学童期の子どもたちと、普段接している同士と一緒に立ち上げた団体になっています。

市民の大人が誰でも教育者になれるというコンセプトをもとに、いろんな市民が関わってこの団体を盛り上げてくれるということができたらいいなと考えて今活動しているところです。

資料にもあります通り事業の目的や効果についてというところで、かなり私たちの方でも、言語化するのに苦労したところなのですが、昨今のコロナの状況によって子どもたちの遊ぶ機会が、減ってしまったり、あとはその管理的な遊びの空間がもたらされるようなことが多くなってきたので、安心して集まって遊べる場所っていうものを持ちたいということと同時に、企業廃材を用いたアートワークの場が少

ないので、この新しい経験だったり新しい感性とか感情を刺激するような場を持ちたいと考えて、今回の事業、これまでも開催はしてきたのですが、完全に無料ということはできておらず、アート、廃材、SDGs というキーワードに引っかかる保護者の方々からの参加者が非常に多かったため、もっといろんな人たちにも認知され参加できるようにしたいと考えて、今回無料で参加できるように、このスタート支援に応募させていただきました。

さらに、最近子どもの権利ということで子どもの声を聞くという傾聴するという言葉が結構出てきているかと思います。しかし私たち大人も含め、私たちの感情って一体どこから出発してるのだろうとか、どのような感情、感性を持っているのだろうとか、これが嫌だとかっていう不快の感情というものをなかなか教育されてきていない。

私たちはそういうのを耕されていない、というような感覚で呼んでいるのですけれども、そういった機会が非常に少ないことから、こういった廃材とか、多種多様な感覚のあるものを用いて、子どもたちにはいろんな不快感快感だけではなく、面白さだったりとか、その気づきや不思議だなと思う探究心好奇心というものを封じ込めることなく、積極的に探求していただきたいなと考えています。

そして、大人がそれを見て単純に子どもたちってこのようなふうに感じてるのだなとか、これは、こういうところが嫌だったのかなっていうものを、幼児教育に関わっているこの設立のメンバーで支えて、言語化していくことを通して、子どもたちの感覚、感情を具体的に明確に言葉にしていく、レポートにして企業廃材を提供してくださった会社様にもフィードバックをしていく新しい双方向の循環ではなく、市民の中で、地域の中でめぐらせる廃材と子どもの考え、思い、そして親子の学びほぐしだったりとかに繋がるような機会も考えて活動しているところです。

あまり綺麗なデータもないのですけども写真が物語っているかなと思います。

私たちがこだわっているのは、子どもたちはすべて力を持っているものだって思ってるのです。やはりその力を奪っているのは、社会であり、大人たちではないのかなと。その基本的な考え方があります。

やはり、あとは教育の第一義責任って何になるのかと考えると、やっぱり親。教育施設もそうだと思うのですけども、親子が非常に大切なのではないのかと思っています。

なので私どもは、なぜ親子にしたのかというと、私どものアプローチはやっぱり親に対してのアプローチが非常に強い。子どもの価値を知っていただくのには、アートって非常にわかりやすくて、展開もいろいろ無限ですし、というのもあって、アートという名前もつけております。

やはり子どもたちが生きていく上で、なぜ社会なのか、社会教育なのかというところは、常々やっぱり次の子どもたちのステージに上がるのって社会なのですよね。

すぐ小学校にあがったり、社会に触れて育まれるべきだろうと。なので私たちは、舞台として必ず親子、そして社会の中で、まちの中で、そしてそのまちを作ってる企業、その企業の廃材を使って、子どもたちは大人たちが捨てるごみをごみだと思っていないです。これは見ればわかるところだと思うのですけど。
以上です。

○事務局
ありがとうございます。
それでは質疑応答に移ります山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長
はい。
それでは委員から質問、コメントがありましたら、ご発言ください。

○原田委員
いくつかお伺いします。一つはアートの心得を持ったスタッフの方がいらっしゃるということでしょうか。

○ART ノ TANEMAKi
私たちが捉えるアートは芸術とか美術の分野ではなくて暮らしそのものと考えております。なので、普段幼児教育に携わっているといいましても、単純に保育士資格を保有しているものとは限らずに、子どもの何を面白がれるのかという観点を持っているスタッフが、一緒に活動しているという意味でございます。

○原田委員
ありがとうございます。アートというよりは、そこから子どもの可能性や気づきに注目されているのですね。
次に、無料にするということは素晴らしいことだと思いますが、一旦無料にすると、補助金がきれて資金調達が難しくなったとき、有料に戻すのは結構難しいのではないかと思うのですけど、その辺何か見通しがありますか。

○ART ノ TANEMAKi
このたびは、あるいみ私どもにとってはチャレンジかなと思っています。
無償化することで、参加者の意識が下がるというのは、実際のところあったりします。今昨の無償化の課題もあったりするのですけれども。
なので有償化という課題もあったのですけども、今回は逆に、どれだけここでチ

ャレンジスタートできるのか、その結果、どういう形になっていくのか。
　もちろんこの次のステージは、もしいろんなことが起これば変化の中でまた有償化、少し参加費をいただくということになるかもしれませんけども、今回あえてチャレンジという意味で、無償化という形にさせていただきました。

○海野委員
　発表お疲れ様でした。写真を見る限り、子どもたちの楽しそうな姿が見えてきていなと思います。何点か質問させていただきます。
　まず廃材を集めたときに、ストックする場所は確保されているのでしょうか。

○ART ノ TANEMAKi
　私の自宅でストックしています。

○海野委員
　かなり集まってくると大変ではないかと思いますがいかがですか。

○ART ノ TANEMAKi
　息子の部屋に協力してねってお願いしているところです。
　それから、企業がお持ちのところがありますので、いわゆるごみ箱ではないですけど、そこから絶えずいただいてくる、会場に応じてという形というのもあります。

○海野委員
　それから、できあがったものについてはどのような処理の仕方をしてるのでしょうか。

○ART ノ TANEMAKi
　この面白い素材というのは、かなり選び抜かれているものなのです。
　やはり遊んでいる中でけがをされては企業も困ってしまいますし、私たちも親御さんも非常に心配されることなので、選び抜かれた廃材になっています。
　ものによってはお持ち帰りいただけるのですが、大きな廃材になりますと、その場に置いて帰るようにとお願いをしていて、常にリユースできるようにしております。あと、細かいもの、あるいは大きな廃材を細かくして使うということになりますと、保護者の方で管理していただいて、ご自宅に飾っていただいたりとかいう流れになっています。

○海野委員

ありがとうございます。最後に、会則を見させていただいた中で、かなり活動が活発になって会員も増えてきているのではないかと思うのですけれども、会則の中に入会に対しての会費等の記載がないのですけれども、そのあたりはどうなっているのでしょうか。

○ART ノ TANEMAKi
積極的に会員の募集を今はしていない状況でございます。
なぜかと申しますと、やはりその場にいるスタッフが、子どもたちの何を面白がれるかという観点を非常に大切にしている、段階になっております。
その教育が徹底できない限りは、あまり会員を増やせないところが本音でありまして、いずれ私達の方で時間ができたときに、会員を募集して、また会費をいただきながらその会費を使って、スタッフ教育と申していいのかわかりませんけれども、そういったことが徹底できたらいいなと考えているところです。

○坂田委員
発表ありがとうございました。素晴らしい子どもの感性を生かした活動ということで非常に感銘を受けております。
少し伺いたいのですけれども、今回作業する場所が、アトリエ根源さんを使うということで、とても素晴らしい古民家ですよね。
ホームページも拝見したところ、かなり利用料がかかるようですが、今後継続をしていった場合にこの使用料というのをどう補完していくのかが少し気になったのでお伺いしたいです。
それから、今後 ART ノ TANEMAKi さんがどういう組織になっていきたいのか伺いたいのですけれどもよろしいでしょうか。

○ART ノ TANEMAKi
まず一つ目の場所代に関してでございますけれども、今御覧いただいているこの場所は高砂ビレッジでございまして、私がシェアオフィスを借りていたという特典を利用して、無償でこのスペースを借りてきたっていう背景がございます。
しかし、時間がなくなってしまってシェアオフィス使えなくなってしまったので、この高砂ビレッジ使えないねってなっているのですが、子どもたちの活動に賛同される方々、地域ですごく増えてきております。
なので、なるべくそういったまちスポさんだったりですとかでどこまでのことができるかというところも少し考えていかなくちゃいけない課題ではあるかなと思うのですが、そういったところと、あるいはうちの近隣ですと、ブランチさんとかもかなり屋外でのイベントもされているので、そういった方々とのご理解とか御協力

を得ながら活動を展開できればいいと考えているところでございます。
　あとはその活動の展望に関しましては、やはり会員を増やして、教育を徹底していくっていうところにあるかなと考えています。教育というのは上から下に教え込むということではなくて、様々な方々に子どものどういうところ面白がったらいいのかって、子どもたちを傾聴するということはどういうことなのか、だったりとか、引き出すための表現の手段だったりとか、言葉に頼らないところで、どういった傾聴の方法があるのかだったりとか、そういった、他の市ではやってないような新しいものを革新的なものをできたらいいなと私は考えております。

○山田委員長
　あと一つコメント、質問が、短くできそうなのですけど。はい、お願いします。

○町田委員
　コメントになりますが、私も1回目の時に少し覗かせていただいていて、子どもたちも本当にすごく楽しそうでしたし、その企業の廃材を使うっていうところで、その廃材を集める経緯であったり、様々な人へのコネクションを広げていくっていう部分でもすごくいいことだと思っておりまして、今後も活用していく場所であるとかそういったところはおそらく、協力してくださるような方が出てくるんではないかなと思いますので、できるだけこの活動を認知していただけるような、広報をしっかりされていくと、より協力者も出てくるんではないかなと思います。
　以上です。頑張ってください。

○山田委員長
　はい、ありがとうございますそれでは質疑の時間経過しましたので、以上で質疑応答は終了させていただきます。

○事務局
　皆さまありがとうございました。
　続きまして、第2回茅ヶ崎コレクション、誰もがランウェイを歩けます、につきまして、ちがコレ実行委員会様から説明していただきます。
　準備の方、よろしくお願いいたします。
　それではお願いいたします。

○ちがコレ実行委員会
　まず動画から御覧いただいいきます。

（動画）

ありがとうございました。

私ども茅ヶ崎コレクション、ちがコレ実行委員会と申します。よろしくお願いいたします。

私どもは社会貢献型ファッションショーを運営しております。

先ほど御覧いただいたように、第１回茅ヶ崎コレクションを開催しております。

おしゃれな大人が暮らすまち茅ヶ崎をPRするために設立した団体です。

今度の事業内容としては、第２回の開催を目指しております。

課題は何かと思ったところで、長引く巣ごもり生活がありまして、中高年の方たちの元気がなくなってしまったのではないかということを感じまして、自分達の経験から皆さまを元気にすることができないかなと考えたときに、茅ヶ崎の人はおしゃれだし、私達の経験でできることってなのだろうと思ったときにファッションショーをしようということを思いつきました。

そこで第１回目開催をして、参加いただいたモデルさんの感想としては、ポジティブに明るくなれたとか、元気になれましたという感想をいただいております。

お越しいただいたお客様からは、こういうみんなが輝いているっていいねっていう前向きな感想をいただいております。

まちや市民への効果として、私たちが思ったことは、茅ヶ崎で暮らすことの誇りを再認識できて、年を重ねても生き生きと暮らせるまちであることを発信してことができたと思っています。

茅ヶ崎市の今後の展望としては、茅ヶ崎市のブランドアピール寄与するイベントを目指していきたいと思います。

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

発表の途中で申し訳なかったですけれども、時間ですので質疑応答に移ります。

委員から質問コメント等ありましたらご発言ください。

○町田委員

ファッションショーですが、モデル参加費が9000円ということで、おそらくいろいろ経費のかかる中で、安く考えてらっしゃるかなと思ったのですけれども、ファッションショーの観覧というのは無料なのでしょうか。

こちらで少しお値段いただけて、それが参加される方に還元されたらいいなと思

ったりするのですけれども。

○ちがコレ実行委員会
　観覧は無料です。

○原田委員
　発表お疲れ様でした。
　経費のことでお伺いしたいのですけれども、全体の額の 6 割近くが外注とそれからチラシの委託なのですけど、例えばチラシのデザイン料とスライドの制作だけでも 10 万円を超えてしまっているのですけれど、これは外注する時にパターン化されたようなものでよければ、かなり安く抑えられそうな気がするのですけど、この辺はいかがですか。
　あるいは出演した方にお配りしするためのスライドや映像であれば、別料金等で本人の負担として徴収することは可能でしょうか。

○ちがコレ実行委員会
　御質問ありがとうございます。
　チラシなのですけれども 3 パターンほど作ったりしておりまして、まずモデル募集の時と、あとは観覧の案内のチラシを作ったりしておりまして、その中でパターンがいくつか作るとなると、割と短い時間で準備をしなくてはいけない。そこを我々、少ない人数で運営してる時に、できる限り目を引くようなものを作りたいというところがありまして、プロの方にお任せするのが、一番効率が良くというところで、費用を計上しております。映像に関しても同様になります。

○原田委員
　先ほど動画で見せていただいた 1 回目の時はどうチラシや映像は作成されたのですか。

○ちがコレ実行委員会
　仲間の会社等に今回だけ何とか協力していただけないかという形でご協力をいただきました。初回なので応援でやってあげようという形でご支援いただきました。
　なかなか 2 回目、3 回を無償というのは厳しいところです。

○海野委員
　先ほどは子どもの喜ぶ姿が見えて、今回は大人の生き生きとした姿が見えて、対照的でよかったと思っています。

何点か、経費についてお伺いしたいのですけれども、第1回目を開いたときにはまだこの補助金がなくて、運営されていたと思うのですけれども、そのときにはちゃんと収入支出の釣り合いが取れていたのでしょうか。

○ちがコレ実行委員会
御質問ありがとうございます。
実はマイナスです。マイナスなのですけれども、やはり先ほども話してくれたように、結構友達の会社さんとかで、無料でデザインするよとかそういう感じて、1回目は皆さまからご協力いただいたのですけれども、2回目となるとそうはいかないというところがありますので、今回、1回目の協賛ではないのですけれども、市民活動推進基金から補助いただけたらとても助かるというところでございます。

○海野委員
少し細かい話なのですけれども、うみかぜテラスは土足禁止の場所と土足で大丈夫な場所とがあると思うのですが、今回の会場は、土足で大丈夫ではなくて、スリッパが必要なところということでしょうか。

○ちがコレ実行委員会
はい。なので経費のところにスリッパっていう項目があります。

○海野委員
観覧にこられる方は、持参にすれば少し経費を抑えられると思ったのですけれども、そのあたりはどうなのですか

○ちがコレ実行委員会
1回目の時に告知をさせていただいたときに、スリッパご持参でということを発信していなかったので、なので今回は主催者でで、11月だったので、少し冷えたり、やはり中高年の方が多いイベントなので、御覧にいらっしゃる方もやはりお友達だと同年代のもいらっしゃいますので、スリッパをこちらの方で用意しました。

○海野委員
最後に感想ですけれども、これは女性のためのファッションショーみたいな感じですけれども、今は共生社会になってきた中では、男性だとか、あるいは障がいを持った方だとか、そういう方たちも、出演できるようになってくるといいと思いました。

○ちがコレ実行委員会
　2回目からは男女、年齢を問わず、広く皆さまにご参加いただけるようにして参りたいと思っています。

○市川委員
　発表ありがとうございました。
　質問とコメントなのですけれども、実際にお作りになった映像、それからスライド制作が、この経費の内訳の中に入っているのですけれども、これの具体的な活用方法が一つ質問と、あとコメントとしてなのですけれども、すごく人が集まってくれば場も盛り上がっていくと思いますし、このイベント自体をまちの中でもっと知っている方が増えれば観覧者も増えるみたいなところもあると思いますので、費用の集め方とか、参加者の方からモデル料の徴収とかっていうところもあったと思うのですけれども、例えば市内の企業さんに協賛をお願いするなどが今後できていくと、巻き込まれていく方たちがもっと協力をしていただけるかなとも思いました。

○ちがコレ実行委員会
　御質問ありがとうございます。
　製作したスライド等々なのですけれども、基本SNSでの集客、告知を中心にしております。動画であったりスライドであったりは、事前の告知でまず使っているというところと、あと当日観覧に来ていただいた方々に、この活動の意義とか趣旨とかをご理解いただくために使ったりはしております。
　あとは参加してくださった方にも、動画写真代というのを中に含めておりますので、皆さまと共有したりしております。
　最後にコメントいただいた、地元を巻き込んでいくところなのですけれども、協賛企業を今後集めていって、もっと盛り上げていきたいと我々も思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○山田委員長
　では時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。
　どうもありがとうございました。

○事務局
　続きまして、チアフル、陽気に楽しくみんなでつながろう、につきましてチアフル様から説明していただきます。
　ご準備をお願いいたします。
　それでは、よろしいでしょうか。お願いいたします。

○チアフル

初めましてチアフル代表の久住です。

本日は貴重な機会をいただきありがとうございます。

いきなり私事なのですけれども、私はダウン症のある５歳の娘を育てています。

年齢が上がるにつれて障がいのある子とない子が、分かれて育っていくことに不安を感じて、陽気に楽しくみんなで繋がることを目指して活動しています。

まず障がい児の親として分けられて育つ不安についてお話させてください。

これは実体験なのですけれども、娘と散歩をしているときに小学校高学年くらいの子が５人で子どもと私の前に立ちふさがってきました。この子はダウン症って急に聞かれました。私は知ってもらえる機会だと思って喜んでいたのですけれども、その子からすると珍しかったのか、学校にいるのって聞いたら、知らないとだけ言って立ち去ってしまいました。そして離れたところからこそこそと何か話している感じで、見ているということがありました。彼女たちの言動の真意はわかりませんし誰が悪いわけでもありません。ただ日頃から様々な個性の子と関わる経験があれば、あんなことはわざわざ言わなかったのではないのでしょうか。今後娘を送り出す社会に不安が募りました。

実際、現状の障がい児の教育は幼児期は療育園を進められることがほとんどで、場合によっては入園後に退園を勧められるケースもあります。また就学期になると、支援級支援学校に通うのが一般的で、交流については学校単位で異なります。

様々な考えがあって正解はありませんが、教員の人手不足や労働時間の問題、教員の知識不足などの課題も多く、障がい児にとって教育の選択肢は少なく、交流する機会もない学校もあるようです。

そんな不安を抱えている時に保護者同士でインクルーシブ公園の話題になりました。

ご存知の方も多いと思いますが、インクルーシブとは、仲間外れにしない、みんな一緒などの意味があります。

インクルーシブとは障がいの有無や身体的な能力にかかわらず公園を訪れるすべての人たちが一緒に過ごす、遊べる整備がされた公園のことです。

誰もが楽しめる公園は、娘が暮らすここ茅ヶ崎にも必要だと思い茅ヶ崎インクルーシブ公園プロジェクトを立ち上げました。

ハード面で言うとアンケートをとって、市に要望書を出したり、 ソフト面でいうと、ボッチャなどのイベントを開催してきました。

これまでの活動で、特にイベントを通して気づいたことは、大人の多くは気を使い合ってしまいます。障がいに関係なく、親とはそういう生き物でありますが、大人の多くは、自分が障がいのある人と関わった経験がない。関わり方を知らないと

なると、もしかしたら傷つけてしまうのかもしれない、と関わることが怖くなります。よって、関わらない方がお互いのためという思考のループが永遠に続いてしまいます。

一方子どもたちはというと、始めこそ、自分との違いに戸惑いが見られますが、交流をしてお互いを知ることで関係性を築いていきました。

そして、改めて感じました。

ともに育たずして理解が進むのかということです。

でも先ほど申した通り、今学校現場では交流が難しいです。

それならば、自分たちで交流のきっかけをつくればと思い、様々な楽しい活動をしていきたいと考えています。

来年度の活動スケジュールです。

基本、月１回パーククリーンを主軸に活動予定です。

また定期的に開催していたボッチャやスライドにありませんが、やさしい日本語プロジェクトさんのご協力のもと、多様性について読み聞かせもパーククリーンと合わせて開催予定です。

また、来年度は、農業体験として自然に触れながら、みんなで協力して楽しむ体験をご提供したいと考えています。

そして、今期鑑賞会を開催したい映画、夢見る小学校はどのような子もありのままでいいんだよという、そんな思いを考えるきっかけになる文部科学省も推薦しているドキュメンタリー映画です。詳細は、お手元の資料にありますのでぜひお目通しください。

最後になりますが、私たちは決して学校を否定しているわけではないです。

むしろ、教育を学校に任せるのではなく、責任のある地域の大人として、子どもたちには多様性を多様な形で体感して欲しい。

だから、チアフルでは、未来の宝である子どもたちが豊かな考えを育み、安心して生きやすい地域になることを目指して活動していきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

○事務局

それでは、質疑応答に移ります山田委員長お願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございました。質問コメントがありましたら、おたずねください。

○坂田委員

発表お疲れ様でした。

共生社会の実現に向けてこういう活動は非常に重要だと伺いながら考えておりました。

幾つか少し伺いたいことがございます。

メンバーの人数が今４名です。この年間のスケジュールを見ると、結構なスケジュールが予定されているのですけれども、皆さまの中で、この計画は十分にできると判断をして、計画を立てられたのか、無理がないだろうかというところ。

それからもう一つ、経費の中で映画のレンタル料が非常に高いですよね。私も様々な団体さんの上映会とか見ていて、上映権がありますのでこの部分は補助金がないとできないのかなと考えておりました。

ですので、今回の補助金については、まずこの上映会を基本に置いて計画を立てられたのかなと推測してしまった経緯がありますので、その点を伺いたいと思います。

それからもう一つコメントです。子どもたちの教育は学校に任せるのではなく、地域でということでコミュニティスクールの動きが県内でも本当に活発になってきております。そういったところも踏まえて、活動の中で皆さまに広報していけるといいのかなと思いました。

補足ですけれど、平塚の総合公園にインクルーシブ器具がしっかり設置されましたのでぜひ遊びに来ていただければと思います。

○チアフル

御質問ありがとうございます。

まずチアフル４名なのですけが、応援はもらっています。ですが、精神疾患があったり身体障がいがあったりと、実際参加が難しいことが多いです。

私の娘はダウン症なので、日常の生活は何も差し支えがないのですが、だからといって回数少ないと意味がないなって思ってるので、月１回で何かをやる予定にはしています。

だから、毎月 SNS とか見ていただくとわかると思うのですけど、毎月、何かしら開催を予定してるのですけれど、娘が風邪を引いたなどで中止になることもあります。

先ほどおっしゃられた通り、映画が主になっています。ただボッチャとかもそうなのですけれど、会場を押さえるのにお金が多少かかることもあり、その時のどうしても自腹で全部やってきたところです。

○坂田委員

ありがとうございます。

やはり大事な活動ですので、様々な方々に協力をしてもらえるように、ぜひ地域

をもっともっと巻き込んでいくといいかなと思います。頑張っていただければと思います。

○市川委員

発表ありがとうございました。

私も小学校4年生の息子がいるのですけれども、おそらく、本人も障がいのある方との接する機会であったり、親ももちろんなのですが、なかなかそういう機会がないっていうのも本当に危機感を持って考えなきゃいけないことかなと思っています。

おそらく今やってらっしゃる活動で、メンバーの方たちも子どものケアも必要な中で活動されているのですごく大変だと思うのです。

でも、活動のメンバーの中に、特に子どもに何かがあるっていうわけではない方がメンバーに加わるということがすごく大きいことだと思うのです。

なので、インクルーシブというところでいくと、障がいのある親御さん、子どもを持った親御さんだけがその活動するのではなく、そのメンバーの中にももっともっとこの状況はまずいなと思う保護者であったり、そういうスタンスの方たちを巻き込むというのはすごく大切だと思うので、活動のプロセスの中で、その保護者の方たちも学んでいくし、障がいのある親御さんもどうしたら違いを分かれるかということが活動の中で、体験できるのではないかなと思うので、そういう広報活動でメンバーを増やしていくというところをされたらいいと思います。

本当に大切な活動だと思いますので、ぜひ応援させていただきたいと思います。

○チアフル

ありがとうございます。

主に参加してくださるのは健常のお子さんとか、親御さんが多いです。障がいのある方のお母さんは子どもを擁護するというか、傷つきたくないというのが先に来てしまって参加がなかなか難しいというところもあります。

でも、それをそのままにしてしまうと、結局逆効果だと思ってるので、今娘のための会みたいに若干なりがちなのですけれども、でもリトルハﾌﾞホームさんとか、こういう考えをお伝えする機会をいただいて、理解されることも多くて、少しずつそういうところで、発達障がいのお子さんのお母さんとかとも繋がり始めてて、参加もできてくるかなと思っております。

○山田委員長

それでは私から一つ伺いたいと思います。

インクルーシブという言葉、様々なものを当たり前に考えていくという理念が大

変すばらしいと感じました。そこで、質問なのですけれども、こうした日常の居場所や活動展開を通して、他の家庭の子どもを預かるということになると思います。そういう時の、この皆さまのモットーというか、子どもと接する上で、そのインクルーシブをより具体的に実現する時にこんなことに気をつけていきたいことなど、思いとか理念がありましたら、そのあたりお聞かせいただいていいでしょうか。

○チアフル
　インクルーシブというと、まだまだ障がい者のためという理解が日本は深いなと思ってるのですけれども、そうしてしまうと意味がない。
　なので、障がいのある方のためにっていう配慮は、どうしても一緒に遊ぶってなると、大人で見なきゃいけないっていう部分ありますけれども、だからといってあの子が行っちゃうからここでは柵の中で遊ぼうとか、そういうがんじがらめにするのではなくて、みんなで協力しながらこの子が一緒に遊べるにはどうしたらいいかっていうのを、大人も考えるのが大事だと思ってるので、そういうところを障がいがあるからではなくて、みんなで遊ぶにはどうしたらいいっていうのをみんなで考えるっていう、大人がこうしなさいああしなさいではなくて、みんなで考えるということを一番大事にしたいと思っています。

○山田委員長
　以上で質疑応答を終了いたします。

○事務局
　皆さまありがとうございました。
　ここでスケジュール通り休憩をとらせていただければと思います。
　再開は 33 分からとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（休憩）

○事務局
　そろそろお時間ですので、皆さま席へお戻りいただけますでしょうか。
　続きまして、子どもアニメーション体験教室につきまして、小さな教室カクツクル様から説明をしていただきます。
　よろしくお願いいたします。

○小さな教室カクツクル
　子どもアニメーション体験教室をこの度会企画しております。

小さな教室カクツクルでございます。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

スライドでも出しますが、お手元に紙での資料を今お配りいたしましたので、その通りに今回説明させていただきます。

我々は小さな教室カクツクルという団体でして、設立は2022年8月1日ととても浅いのですが、それ以前にワークショップでアニメーション体験教室を子ども対象にしておりまして、そういった経緯がありまして、このたび、任意団体を設立いたしました。主な活動内容等は資料に書いてございますので、お目通ししていただければと思います。

次に3ページ。活動の背景です。子どもたちが保護者のもとで生活をしているとどうしても保護者の意思によって生活が左右されてしまうのです。

そういったことを考えた時に保護者ではない、まちの人、市民の人が経験を用意してあげる。そういった環境が必要だと思うのですよ。

それはどのようなものでもいいと思うのです。

で、そういった体験格差という言葉で表現させていただきましたが、この中には様々な私の思いがあります。

次です。今度真面目な話になりまして、メディアリテラシー、現在の社会を考えたときに、スマートフォンだったりとかパソコだったりとかそういったものというのは生活から切り離せません。

それを全部いけないもの駄目なものと考えるのではなくて、では味方につけよううまく使おうということを考えたら、こういった機器を使ったワークショップってどうかなと思います。

で、身近にある道具を使って実はアニメーションはつくれるのです。

のめり込んでしまうと道具は本当に際限がなくプロ仕様のものを用意しなければっていう気持ちにどんどのようなっていくのですが、身近なものを使う工夫というのが実はとても大切なのです。

あるもので頑張るぞっていうね。

そこですごく考えますよね。

そういったわくわく感も、体験してもらいたいと思っています。子どものころに受けたその感動というのは、一過性のものではなくて、実はすごく残るのですよ。

しぶとくしぶとくその人の心の中に体の中に、そういった体験を私達が茅ヶ崎市民の1人として、大人たちが、子どもたちに、提案してあげたい用意してあげたいなと皆さま思いますよね。

次に活動の目標です。自身主体性創作、こういったものは皆さまへ重々ご理解いただいてると思いますので、後でゆっくりご覧ください。

自分が住んでいるまちに愛着を持ってもらうにはどうしたらいいか考えたときに、人間関係もそうなのですけれども、知ることが第一歩ですよね。

知ることによって気持ちの距離が近くなります。見えてなかったものが見えたりします。

そこから始めようかなということでプロセスを大事にしたワークショップも 8 月に用意しております。

ワークショップは年に 4 回開催しております。詳細はお手元の事前資料の方に書いてございますのでよろしくお願いいたします。

年 4 回にしたのは無理がない企画にしたいということで回数を設定いたしました。

次に 1 回目 2 回目 3 回目 4 回の目の説明をしたいのですが時間がないので 1 回目、これが非常に大事でして、茅ヶ崎にまつわるストーリーを題材にスマートフォンのアプリを使って、、、

（終了の鐘）

○小さな教室カクツクル

以上でございます。

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

時間的に全部をご説明いただけませんでしたが、質疑応答の時間に移ります。委員からの質問コメントがありましたらご発言ください。

○坂田委員

発表ありがとうございました。

支出なのですけれども、学生インターンのアルバイト料が設定をされています。事前に質問をさせていただいたところ和光大学情報メディアデザインゼミの方ということなのですがこの学生インターンに関わってもらうこと、それから賃金を払うということについてご見解を伺いたいと思うのですけどいかがでしょう。

○小さな教室カクツクル

これまでも、私どもワークショップをすでに開催させていただいているのですけれども、その際にもうすでにお手伝い学生ということをお願いしておりまして、一つは、子どもたちと、我々講師役をやっていたのですけれども、その間に立つお姉さん役という形で、しかも日頃アニメーションを学んでいるという子どもたちによ

り近い視点で、ものづくりをサポートいただいているという面があります。
子どもたちにも、様々な年齢層のプロに近い人と接して、アニメーションを作るという一つのコミュニティに参加してもらいたいという狙いがあります。
茅ヶ崎に在住している方はまだ少ないので、交通費も込み込みで、大学生もなかなか普段、土日などアルバイトで日々生計を立てている段階なので、4時間、やっぱりこうじっくり関わってもらうという形になると、ある程度はインターンシップというような形で参加してもらう形がいいと思っておりますので、交通費も込みという形で、教員免許の取得やアニメーションの制作を目指しているような学生が参加するということで、みんなで様々な年齢層での教育環境を作るということに狙いがあります。

○坂田委員
ありがとうございました。学生が俗に言う斜めの関係というところで、非常にいいコーディネーターとしての役割を果たされているのかなと伺いました。
今日最初に発表された団体さんとも連携できたらいいと思いますので、ぜひこの場で色々と連携をして横の広がりを持っていただけるといいと思います。

○山田委員長
続いて御質問コメントいかがでしょうか。

○原田委員
今の質問と少し関連するのですけれども、今後の展望として、地元の若い方とか興味ある方を巻き込むことがすごく大事だと思うのですけれど、その辺の展望はいかがでしょうか。

○小さな教室カクツクル
資料集の41ページに今後の展望について記載させていただいているのですけれども、一つは、地域の方を巻き込むための仕掛けづくりとしては、小学校の校区ごとに巡回して、こういったワークショップ活動をアピールして、ぜひ呼んでいただけるようにしたい。
アーティストのアウトリーチ活動というのも私、前の教育NPOで関わっておりましたので、子どもたちが直接ものづくりをしている方と対面で、一緒にものづくりの現場を見るとか、聞けるのはとても感動が大きいので、その部分を意図しております。
大学のゼミ生などがどう関わるかも、関係があるということで、私が実際教えている学校の芸術学部というところと、もう一つは東京造形大学のアニメーションの

ワークショップの第一人者とも言える方が、茅ヶ崎でも、子どもワークショップのご経験もあり、東京アニメアワードなどでも水族館などをテーマにしたワークショップをやっているので、湘南の文化や母と子どもをテーマにした子育て世代との交流にも大変マッチングする先生ですので、こういった方々と、ぜひ親子参加、ご兄弟とか保護者の方々で参加いただいて、おうちに持って帰って、ぜひ次回作をやってみようというところにつなげられたらと思っております。

現在も先生のもとで学んだ小学生の女の子が、夏休みの自由研究でアニメーション作る、そしてそれを発表するようなことを展開していますので、最初はこの先生の感動的な作品づくりをみんなで見させていただいて、そのあと少数精鋭でワークショップを4時間じっくり行った後、もう少しこう市民普及型にじわじわとスパイラル的な渦を広げていきたいなと思っております。

ですのでサンノイチは、ほぼ市民の方々に通りがかりに作品のメイキングを見ていただく、またはその場で参加したくなったら体験できるというような仕掛けづくりを考えております。

○原田委員

受け入れのスタッフという視点から見ると、当面は地元の住民、市民の方というよりは、講師の先生のつてで集めていきたいということでしょうか。

参加者の子どもは地元の方だと思うのですけれど、受け入れのスタッフの方ですが、継続していくとインターンシップで経費を出してるのもなかなか難しいと思うのですけれども。

○小さな教室カクツクル

両方ありますね。市内在住者数名、それから近隣在住者数名で賄っていきたいと。

○原田委員

そういうスタッフの方をどうリクルートしていこうかという考え、戦略などはありますか。

○小さな教室カクツクル

私たちが学童と教育に関わっていますので、我々だけでもある程度は回っていくのですけれども、プラスアルファで、予備軍としての若手の学生たちは、これからも毎年入れ替わってきますので、同じように声をかけることが可能になります。

あとはお母様方とか、ご関心を持った方々からも、また参加いただけると良いなと思っています。

○山田委員長
　簡単に最後一つだけ、こうした活動を伺いますと、理念概念はものすごくお考えいただいて作られていると思います。その上で、参加者の納得感や満足感を皆さまとしてはどのように計っていくのか、その手段について、もし展望があればお聞かせください。

○小さな教室カクツクル
　どのように計るのかというのは少し数字では難しいのですが、何分アートですので、これはこうということは、なかなか指し示すの難しいのですが、その場におけるワクワク感、熱気感というもので十分計れるのではないかというのは日頃私学童保育で常勤しておりまして、もう手に取るようにわかります。それだけでは、駄目でしょうか。
　やはり返ってきます。これ次はどうしたらいいの。受け身ではなくて、どんどん発信していきます。
　なので私たちのスキルというのは、アニメーションを教えるというよりはそれを拾っていく。そっちに重きを置いています。

○山田委員長
　ぜひそのあたりも記録に残していただくと、伝えていただけると良いのではないかなと。

○小さな教室カクツクル
　私研究者もやっていますので、定性的評価と定量的評価というのはコミュニティを研究なさってる先生もご存知だと思うのですが、定性的に顔の表情を使えるのです。
　定量的にはアンケートを集めるというのもあるのですが、その終わった瞬間のアンケートと、後日何かをおうちでやってみましたかというアンケートもぜひ集めてみたいと思っています。
　私たちYouTubeのチャンネルと、ホームページもございます。本日、こちらのスライドと同じ資料をまだお持ちでない方は、廊下の方でご用意ございますので、ぜひ、Webの方、YouTubeの方も御覧いただければと存じます。

○山田委員長
　それでは時間が過ぎましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

それでは続きまして、うみこころ、みんなこの地球に生きる同じ命、イロトリドリの命を大切に、平和をつくるにつきまして、うみこころ様から説明していただきます。ご準備をお願いいたします。

○うみこころ

よろしくお願いいたします。

私たちは、出会えた人へ笑顔やげんきを届けたい、命の大切さだったり、平和の願いを伝えていきたいと活動しています。うみこころです。よろしくお願いいたします。

私たちは新江の島水族館のドルフェリアというショーにでてくるアクアンという役をしていました。

そこで出会った2人が今こうして活動しております。

コロナ禍で、人と人との触れ合いがすごく少なくなってしまったことから、そこは目には見えないのですけれど、大切な部分だと思っていて、人と人とが触れ合うことで生まれるぬくもり温かさだったり、あとは、同じ時代に、生きていられるというこの奇跡を伝えたいという思いから、今回のステージが生まれようとしています。

私たちは歌と踊りとお話を使ったオリジナルのパフォーマンスをしています。

今回のステージは、地球と環境と私達をテーマに作り上げていきます。

私たちは地球と繋がっています。私たちは小学生の子どもを持つ母親です。下は幼稚園保育園の年代なのですが、例えば、今の時代、マスクをつけることが、個人の判断に変わりましたが、小学校では、マスクをつけていない子がいじめに遭ったりだったりとか、意見の違う価値観の違う人を攻撃するということが生まれてしまっています。

この小さな価値観の違いを攻撃するということが、いずれは世界の戦争へ繋がり、心無い自然破壊に繋がっていくと考えています。

そのことから、一人一人の違いを認め合い、尊重することが平和に繋がり、地球を守ることにも繋がると強く信じています。

今回のステージは参加型を予定していまして、小学生の子どもたちと一緒に、ある一つのシーンを一緒に踊り、また振り付けも一緒に考えるということを予定しております。

それを一緒に作ることで、一人一人の違った価値観を認めあう場を作っていきたいと思っています。

そして一人一人の命はすべて、かけがえのない大切な命であり、そのままありのままでいるということが素晴らしいということを、活動と表現を見ていただくことで、伝えていきたいと思っております。

私たちは垣根のないステージを作りたいと思っているので、どのような方も怒っても笑っても泣いても大丈夫、オール OK だよというステージを作りたいと思っています。

過去の映像なのですけれど、こちらの映像を御覧ください。

（動画）

○うみこころ

このときは食育をテーマに、私たちは命をいただくことで命をつないで生きていることをテーマに、朗読して、歌と踊りで表現しました。

オリジナルで作っている部分としては、表現として難しい、殺してしまうシーンを踊りで表現して、伝えることをしました。

以上となります。ありがとうございました。

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは委員からの質問、コメントをお願いいたします。

冒頭に大きい質問をしてしまって大変恐縮なのですけれども、ステージのライブ感は大変よく伝わりますし、とてもすてきなことで意味があると思いました。その上で、ある意味で言うと打ち上げ花火となるものを、皆さまの活動としてどのように、年間の活動として、実現や表現をしていきたいとお感じでしょうか。方向性というか理念をお答えいただければと思います。

○うみこころ

大きなステージを予定している中で、それまでの間にフリーライブだったりとかあとは地域の、今もうすでに予定されてるのですけれど、英語教室さんにお願いされたりとかして、本物のパフォーマンスを見せてくださいというところに遊びに行かせていただいたりだったりとか、まだ決まってはないのですけれども、学校の方で来てくださいっていう依頼とかもちょくちょくいただいていて、保育園の先生からも、コロナ禍で呼べる団体が減ってしまったがために、そういうパフォーマンスをしている団体を探しているという相談を受けたりとかしていますので、そういう大きなステージ以外には、学校などの教育機関や、地域の人たちに、たくさん見てもらえる場所で表現をして伝えていくということを考えています。

○山田委員長
　こうした大きい活動をきっかけに、地域の中に根を張っていく展望があるということですね。ありがとうございます。
　続いて、委員からの質問コメントいかがですか。

○原田委員
　初歩的な質問かもしれませんけど、保育園とか様々な場所に出て行かれるのはすごく子どもにとってもいいと思うのですけれど、そういう場合、料金取る取らないの線引についてどうお考えですか。

○うみこころ
　今の時点では呼んでくださった主催者さん側の要望に沿ってやるようにしていて、特に幾らではないと出演しませんということはなくて、ですからそちら側が、これくらいだったら出せるのだけどという感じでいつもお願いいただいて、そちらで結構ですという感じでやらせていただいています。
　のちのちにはやっぱり収益として回っていかないと活動というのは続けられないなと思っていますので、そのあたりは、のちのち考えていきますけれどもここ2、3年は立ち上げということで、たくさんの方と関わっていく、協力していただける方と出会っていくということに重きに置いて、主催者様側のご意向に沿ってやらせていただいております。

○原田委員
　趣旨はよくわかりました。
　今回の提案事業について、公益性があるかを見ないとけないのですけれど、この公益性というのは、具体的な未就学児から高校生までは無料にしているというところが主な公益性の点ということでいいのでしょう。

○うみこころ
　その部分ちゃんと言えてなかったのですけれども、茅ヶ崎から平和を発信していくという意味で、茅ヶ崎市から、まずはそういう人たちを生んでいく。参加する人たちがやさしい気持ちになって、小さなところから、いじめとか、誰かを批判するということをなくしていくという意味では、茅ヶ崎市民の方への公益性というところはそこへ今私たちは重きを置いています。茅ヶ崎市から発信していく、茅ヶ崎市から日本全国へ、その先は世界へという感じに広がっていけたらいいなと思っております。

○原田委員
　あと事業収入のところで、大人 125 人、無料対象者 63 人という試算をされていますけど、これ過去の経験からこれくらい埋まるだろうという想定ですか。

○うみこころ
　先ほど見ていただいた、藤沢市の公民館でやらせていただいたものを一応データとしてとらせていただいて、あのときは、2 百名以上、あの時は無料だったのですけれども、満席くらいになったのです。
　なので、できる限り満席を目指したいということで無料枠を作っているっていうのも、その中に入っております。

○原田委員
　なかなかここが赤字になってしまうとかなりきつくなってしまいますね。ですがこの辺は見通しが立っているということですね。

○うみこころ
　そうです。

○原田委員
　ありがとうございます。

○坂田委員
　発表ありがとうございます。
　お金のことばかり聞いて恐縮なのですけれど、やはり舞台を作るというのは本当に様々なところで経費がかかります。まだ立ち上げたばかりということで、2、3 年は茅ヶ崎から、少しずつ活動を固めていって、だんだんと世の中に打って出ていくということを考えてらっしゃるということですので、ぜひ、事業と収支のバランス、私も常に頭の中に電卓があるのですけれど、活動を継続していく上でそこの部分は、シビアにならないといけない部分はどうしても出てくるかと思います。パフォーマンスはとても素敵ですが、やはり組織の中の事務作業も両輪で動かしていかないといけないと思いましたのでぜひその部分は頑張っていただければと思います。

○うみこころ
　お金のことはすごいシビアに相談しています。
○坂田委員
　少しずつ料金をいただくとかしないと少し厳しいですよね。

ぜひ頑張っていただきたいと思います。

○海野委員
お金の話で恐縮なのですけれども、今回の収支予算は、このステージにかかる費用だと思うのですが、通常の運営に対しての費用はどのような感じでやってるのでしょうか。

○うみこころ
通常は私たち練習場所が小和田の公民館を借りてるのですが、無料なので場所代はかかってないっていうのもあります。
さらにチラシを作ろうとかいう時は、お互いに月会費みたいな感じでお金を出し合って、そこからやりくりして、今は自費で回している感じです。

○海野委員
それから規約を見せていただいてる限りでは、特に会員を募集するとかそういうこともないような感じなのですけれども、今後スタッフさんも結構いないと、やっていけないのではないかと思って、募集するのも大変かなと思うのですけれども、その辺、会員さんを増やす努力であったりとか、会費についてご所見があればお願いします。

○うみこころ
会費についてはあまり考えてないのですけれど、スタッフさんに関しては本当にいないと回らないです。
今回も、照明をしてくださる方だったりとか、舞台背景をしてくださる方を探すために、様々なところに声をかけさせていただいていて、今少しピンときてるところが専門学校で学んでらっしゃる学生さんに、本物の舞台を一緒に作るという面で一緒にやっていく、その先も、お仕事のリクルートではないですけれども、一緒に私たちのチームとなってやっていくことができたらいいと思って、専門学校に問い合わせをさせていただいたりしております。

○海野委員
そうするとここの支出で出てる謝金の部分のスタッフさんというのはある程度、あたりがつけてある感じでよろしいでしょうか。

○うみこころ
はいそうです。

○海野委員
　ありがとうございます。

○山田委員長
　では時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。
　どうもありがとうございました。

○事務局
　それでは続きまして、広報紙の作成と発行について、ふるさとファーマーズ様から説明していただきますご準備をお願いいたします。

○ふるさとファーマーズ
　ふるさとファーマーズです。
　当団体では環境問題や農業の大切さを広報するために、広報紙を発行する方向で今進んでおります。
　当団体の事業を始めていく経緯としては、今の日本の食料自給率に関する背景がありまして、グラフを見ていただく通り、右側が日本なのですけれど、圧倒的に先進国の中では自給率が低いという状況で、平時であれば全然問題ないと思うのですけれど、コロナの問題やウクライナ、ロシアの戦争のときに、海外から買う食べ物が入ってこなくなったという背景で小麦粉とかがスーパーから消えたり、あるいは値段がはね上がったりしたことがあったと思うのですけれど、消費者がダメージを負っている以上に、やはり農家さんがより大きなダメージを負ってる背景がありまして、近隣のお世話になっている農家さんと話をして、やはり肥料とか、農薬といった資材の値上がりが経営を苦しくしているというので、そういったところの背景を茅ヶ崎市民の皆さまに知ってもらいたいという思いで、農家さんと提携して、畑で今野菜を作る活動しております。
　ただ農薬とか肥料を使った栽培方法だけではなくてオーガニックの栽培に関しても、着目しておりまして、ここに関しても日本はオーガニックっていう、農業の取り扱い面積も、先進国の中ではかなり低いとされておりまして、オーガニックの農家さんと提携して、少しでも日本でオーガニックを広げていけたらなという思いで、活動しております。
　隣の藤沢市では、オーガニックと通常の慣行農法という農薬や肥料を使った栽培方法でちゃんと区画分けがされているような状況なのですけれど、これは当団体の課題でもありまして、その区画分けがうまく茅ヶ崎市内ではできてないという話を農家さんから聞きまして、やはりうまく共存できるような形をつくれたらいいので

はないかなと思い活動しております。

こちらは当団体のチラシで、シンプルにSNS等に載せてはいるのですが、これだけだと、どういう思いで活動してるのかというのは、なかなか伝わりにくいなというところが課題に挙がりまして、少しでもその取り組みを知ってもらいたいということで、今回広報紙を作らせてもらえたらと思います。

他の神奈川新聞や、広報茅ヶ崎で掲載させていただいたのですけれど、やはり広報茅ヶ崎とかで掲載していただいた効果があって、メンバーさんが、最初はコロナ禍で9人となっていたのですが、今10数名で活動しておりまして、少しでも農家さんのサポートだったりとか、今の茅ヶ崎をはじめ、日本の食文化の課題を少しでも解消できたらなと思い取り組んでいます。

こちらは、神奈川新聞で掲載させていただいた記事です。こちらも写真見ていただくとわかると思うのですけれど、雑草とかがいっぱいというような状態で、私たちの取り組のでるのは不耕起栽培と言って、土を耕さない栽培方法で少し変わった野菜の育て方をしておりまして、最近はやはりコロナとかの影響で健康志向というのが高まってきていて、メンバーさんの中では、やはり農薬とかはなるべく避けたいという方々が増えてきて、安心安全な食事というのに取組めたらと思っています。具体的な広報紙の掲載場所なのですけれど、茅ヶ崎の駅の近くにある飲食店、実際に野菜を提供させていただいてるのですけれど、こういった飲食店や、あと今回来てらっしゃるリトルハブホームさんやこちらに来てない南湖ハウスさんといった他のNPO団体と提携して、実際にこういった形で当団体は取り組のでますよということを知ってもらえたらと思い、広報紙をいたるところで出してもらえたらなと思っております。

以上で終わります。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問コメントがありましたらご発言ください。

○原田委員

発表ありがとうござました。今、生産緑地も解除されている中でとても重要な課題だと思います。

先ほど写真でもありましたように、既に実際に畑を耕されている、体験農園をされていると思うのですけれど、教えていただきたいのは、活動をこれから軌道に乗

せる場合には、一義的には農園の維持管理とか拡大等に、お金を使うのかなと思ったのですけれど、タブロイド紙のために、広報にお金を使うということの意味、もうちょっと言えば、もっと SNS など不特定多数の人にアクセスしてもらえるような、ものの方がよりアクセスできるのではないでしょうか。

元農家の土地を借りて拡大することにお金使うとか様々考えられると思うのですけれど、ここに行き着いた趣旨というのがもしあれば教えていただきたい。

○ふるさとファーマーズ

既に SNS でも活動はしてるのですけれど、今の段階では茅ヶ崎市民の方々に来ていただいているきっかけづくりとしてはやはり先ほどの広報ちがさきが一番多くて、SNS の運用の仕方にも課題はあるとは思うのですけれど、やはり広報紙が一番レバレッジが効いてたかなという結果が出てましたので、まずは知ってもらって、やはり私たちとしてもやはり環境問題のことは考えているので、できる限りタブロイド紙とかそういう発行物に関しては、抑えていきたい気持ちはあります。

少しでも認知してもらってから、SNS の運用という方向に進めていけたらと思っております。

あとは、本当にたくさんの方に来ていただきたいというのがあるので、やはりシニア世代の方たちなんかは、SNS とかネット上の少し弱いっていう部分がどうしてもありますので、もっともっとたくさんの方に来ていただくためにはやはりタブロイド紙みたいな、紙面として残ってる方が、広報ちがさきに載って出させていただいたときに効果があったので、今後、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいがある方ない方、すべての方達に畑というものが、生産現場というものは必要だと思うのでそこを改めて理解していただいたり、ここから僕たちはどういう方向に進んでいくのかということも含めて考える場としても、こういう畑というものはすごく素晴らしい場所だと思っていますので、そういった形でタブロイド紙を作成させていただきたいと今回考えに至りました。

○原田委員

地産地消をこれから展開していくためにも、そもそも農地がないと活動できないと思うのですごく大事だと思いますし、素晴らしいビジョンだとは思うのですけれどこれを拡大していく戦略なのですか。

ある程度茅ヶ崎の中で地産地消を目指せるような、それだけ耕す農地を拡大していったりその担い手を増やすところまで戦略に入れてらっしゃるということですか。

○ふるさとファーマーズ

段階的かなと思ってまして、まずはこの消費者のリテラシーを上げていくことが

すごく大事だなと思ってまして、消費者の地産地消の意識であったりとか、涵養機能の意識や環境の意識であったりとかそういったものが上がってくれば、必然的にその生産者の方たちも、そちらの方向にシフトしていったりとか、例えば海外のものを買わずに、茅ヶ崎のものを買おうよみたいなことが、これは生産の方も上がっていくし、生産者の方の悩みとしては、農家資格ってものがあるのですけれどその農家資格を取ったものはいいけど、そこから先、営業活動みたいになるので、その時に消費者リテラシーが上がっている、例えばふるさとファーマーズに来ていただいた団体さんですとか学校ですとかが、そこの生産者の方から購入していただくってことに繋がれば、生産と消費、両方ともリテラシーを上げつつ茅ヶ崎市の生産者を支えていくことにも繋がっていくと思っていますので、まず私たちとしては、様々な人たちの、消費リテラシーを上げていくことがまず入口だと考えています。

○雫石委員

私の友人にも援農活動をしてる人がいるのですけれども、この茅ヶ崎でいきますと、やはり高齢化が進んでいますので、どんどん耕さない畑が増えていっているのが現状だと思うのですけれども、横の繋がり、それからそういう畑、実際生きてる畑を増やしていくかということを、様々な団体あると思うのですけれども、どういう活動を今後していきたいと、横の繋がりを含めて、教えていただきたいのですけれども。

○ふるさとファーマーズ

まず私が農業の現場に入って思ったことは、本当に横の繋がりや、村社会的なところがあるので、いきなり私たちが入っていって、こういうことしますよと言っても、やはり懐疑的な目で見られてるという現状があって、そこをクリアしていく。新しい農地であったりとか、農家さんのご紹介であったりというのは、やはりその農家さんの窓口になっていただいて、今農地を貸していただいてる方が、鎌倉時代からずっと、芹沢地区で農業をやられてる方なのですけれど、その方が紹介をしてくれたりとか、不耕起栽培でお世話になっている農家さんなどから、まずは目に見える範囲で私たちを信頼していただいて、あの人たちはちゃんとやってるよという農家さんのお墨付きがないとやはり農家同士で信頼が得られていかないので、まずは芹沢地区で、地域に根づいて活動していきつつ、これから耕作放棄地が、様々な場所で多分出てくると思うのですけれど、そうなったときに私たちのやり方で生産者の方たちが増えていくのがいいのですけれどでも、農地をまず守っていかないといけないという現状があると思うのです。

こういう市民団体が運営する畑というものも一例として、市民の皆さまにも見せて、私たち以外のところでもそういった活動がもっともっと展開されることが、地

産地消にも繋がってくるでしょうし、消費者リテラシーにもなるし、結果的に生産者の向上にも繋がっていくのではないかと私は考えています。

○山田委員長
　ちょうど時間となったようですので、以上で質疑応答は終了いたします。ありがとうございました。

○事務局
　ここで休憩をとらせていただければと思います。
　23 分再開とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（休憩）

○事務局
　皆さま、よろしいでしょうか。再開をさせていただければと思います。
　続きまして、ボランティア養成講座、子どもの現状と課題、子どもに対するコミュニケーションを学ぶ連続講座につきまして、一般社団法人リトルハブホーム様から説明していただきます。
　それでは、説明の方よろしくお願いいたします。

○一般社団法人リトルハブホーム
　初めにリトルハブホームのコンセプトを、映像の冒頭部分だけ、1 分ほどお見せしたいと思います。
　今、日本には様々な社会問題が起こっています。自殺、ひきこもり、虐待や凶悪犯罪などの様々な事件、その背景にある複雑な要因。物質的に豊かになったはずのこの日本でなぜ増え続けているのでしょうか。
　何が問題とされ、そして私たちは一体何ができるのでしょうか。
　リトルハブホームでは、様々な人々が暮らす地域から、それぞれが抱えている苦しさを軽くしていく糸口として、そして今ある社会的な様々な問題に対してアプローチするハブとなることを目指しています。
　昔のおばちゃんちの縁側のような居場所を展開し、様々な人々との出会い、繋がりをつくり、地域に根差した暮らしを送ること。子どもも大人も育ちあえる場、いつでも誰かがいて気軽に立ち寄れる場、少し困ったときに相談できる場、そんなリトルハブホームでは、小さな拠点、ハブが広がれば、まち全体が一つの大きなホームに、をコンセプトに活動しています。
　改めまして初めましてリトルハブホームの代表の岩崎と、理事の原田と申します。

代表をはじめ、児童養護施設だったり、また国内外で子どもの現場などの様々な多様な経験を持つメンバーが、日本における児童虐待をはじめ、自殺、いじめ、ひきこもりなど、日本の子どもたちが育つ環境に対する課題がとても深刻化していることを痛感しまして、またコロナ禍で、社会的孤立がさらに深まる中で、子どもたちが施設に保護される前に、地域で困る前に相談できる人と人との関係を取り戻せる場として、地域の近所にあるような縁側のあるおばあちゃんちをコンセプトに、茅ヶ崎市東海岸にて、子どもたちが子ども時代から地域を中心として多様な繋がりを育むことができる居場所、みんなの家を運営しています。

2021 年 12 月から任意団体として活動しまして、2022 年 4 月に、非営利型の一般社団に登記しまして、現在の団体の事業は、様々な事業をしているのですけれども主に三つを軸としています。

一つ目がおむすび寺子屋といいまして、見守りが必要な地域の子どもを主な対象とした学習見守り、居場所の提供。そして二つ目が、子どもや地域の課題についてのお話会や講師を呼んで行う勉強会。そして三つ目が、地域のボランティアスタッフなどによるまちの保健室、子育ておしゃべり会などのテーマごとの集いです。

今回申請しました事業内容の背景としましては、この木の部分の②番に当たる部分になります。

現在みんなの家を開いていて、4 ヶ月で延べ 600 人ほどのご来所いただいた中で、子どもたちの課題に関心のある方も多く、その中でも、初めてこういった子どもたちの問題の深刻さを知った、何かしたいけど何をすればいいのかわからなかった、子どものことについて何からすればいいのかわからないという、今後地域のハブ、小さな拠点となりうる思いのある地域市民の方々の声から、子どもたちを取り巻く課題を学ぶ機会を定期的に継続して、学び合っていく必要性を感じてきたことが事業の背景です。

事業内容としましてはボランティアの養成講座を行いまして、地域の関心のある大人とともに、子どもの現状だったり、関わる際のコミュニケーションスキルを連続講座として 1 ヶ月で 2 回、年 3 回継続して学んでいきます。

目的、効果としましては、関心のある地域の方々が子どもの現状を学ぶ機会を用意することで、子どもの課題がより身近になり、さらに具体的に子どもたちに関わる機会を設けていくことで、一人一人が地域の力になれるステップとなり、子どもの課題のみならず、地域も担い手の 1 人だという実感を育み、地域をともにつくる市民性を育んでいくきっかけとなります。

このステップでいうところのステップ 2 から 3 を強化していくために、この事業を行っていきたいと思っています。

今後の展望としましては、現在すでに茅ヶ崎市にある福祉政策課であったり、地域の社会福祉協議会、あと関係機関との連携に向けた関係を構築しているところで、

どのようなケースの子どもたちであれば紹介していいですかという声をすでにいただいております。そういった子どもたちとの関係機関とも連携を深めながら、この事業の講座でボランティアさんたちが学んだことを生かして、実践する場を増やして、実践から学んだことを振り返る場を設けて、ステップ 2 から 3 へと進んでいく、ともに実践から学び人同士が繋がっていき、その人自身が地域のハブとなっていくそんな輪を広げていきたいと思っています。次年度以降は全国でこのような子どもたちのために何とか地域でできることをしたいと考えている大人と全国でも展開して参りたいと思います。

○事務局
　それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長
　ありがとうございました。委員から質問、コメントお願いいたします。
　発表も資料も見せていただきますと、スタートということよりも、どちらかというと今ある活動をさらに充実させるということなので、その辺の展開は大変すばらしいと思いました。
　そこで、あえて伺うのですけれども、皆さまとしてはご自身の活動が、どの点がスタートで、どの点のサポートがあるとより助かるとお感じになっているのでしょうか。
　そうした日常のちょっとした課題ですとか、問題点、そういうところで何か気になってるところがありましたらご紹介ください。

○一般社団法人リトルハブホーム
　御質問ありがとうございます。
　今、関心あるボランティアさんが来ていただいてるのですが、やはり学ぶ機会、助成金として提出させていただいているのがコミュニケーションの講座だったり、子どもの現状を学ぶ機会が、現状ではまだ用意されてないので、子どもにどうやって関わるかというところで不安を持たれてることも多いので、こういったところでステップを作って、サポートとしては市民活動推進補助金を採択された際には広報も広く伝わるというところで、先ほどふるさとファーマーズさん言われたような、様々なところに広報していただくような期待をしています。

○山田委員長
　そのあたり、先ほどの自己紹介の中にも書いてありますけれど、世界三周の経験を生かして、今後展開してくださるということです。ありがとうございます。

他に御質問コメントありましたら、お尋ねください。

○坂田委員
発表ありがとうございます。
私もホームページの方拝見させていただきまして、リトルハブホームさんがどういう拠点でどのような活動をしているか少し勉強させていただきました。
まず、拠点の運営というところが一つ大きな活動の柱になっていると思います。
それから、その拠点をどう生かして、市民の皆さまと協力しながら、地域子育てをしていく環境を作っていくかということだと思うのですが、そこをいわゆる経営的に考えていらっしゃるか。
今回申請の内容だけですと、全体の予算が見えてこないので、どういう収支バランスで今動いているのかというところも含めて教えていただければと思います。

○一般社団法人リトルハブホーム
御質問ありがとうございました。
事前質問で全体の予算が書かれたものを提出していますが、今口頭でお伝えすると、今一軒家をお借りしている状況で、家賃が発生しています。ただ、ありがたいことに海岸地区の社会福祉協議会だったり、まちぢから協議会だったりというところで、ご協力いただける会員さんが今、家賃の8割分は補填していただいてる状況です。賛助会員とかは今からお声掛けしていこうかなというところの状況なので、今年は市民活動推進補助金の広報とともに、賛助会員の増員を考えています。比較的お金がかかる事業ではなく、継続していける可能性もあります。当初は空き家を考えておりまして、海岸沿いで家があったらいいなとすごく伝えていたら、すごく理想的な物件に出会ってしまって、今家賃がかかるおうちをお借りしてるのですけれど、比較的安価で貸していただいていて、今後茅ヶ崎市の空き家、11％今空き家があるみたいなので、そちらの方にも問いかけながら、以前、茅ヶ崎南地区まちぢから協議会でもお話させていただいたのですけれども、今空き家が増えてる状況だったりとか、以前の茅ヶ崎の風景が失われている現状もありますので、そういったところも加味して活動していきたいと考えております。

○坂田委員
そうすると、拠点は立ち上げてはいますけれども、今後の流れの中ではご移転を検討しているということでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム
移転というより増やして、ちっちゃな拠点です。本当にちっちゃな場所でもいい

ので、やはり場所というか、そこに誰がいるかが子どもたちにとって重要で、この人がここにいるという、いかなくても安心できる関係、本当は徒歩圏内で増やしていきたいと思っていて、子ども１１０番のお家とか、いろいろお声掛けしながら、繋がって、その人がハブになる拠点をどんどん増やしていきたいと思っています。

○坂田委員
　そうなるとやはりボランティアの育成って非常に大事になってくるということですよね。

○一般社団法人リトルハブホーム
　団体のみならず、様々なところで活動していける、子どもの関わりを丁寧にできる大人を増やして行きたいと思っています。思いある方はすごく多いのですが、子どもとの関わりの中で葛藤を覚える方がすごく多いので、私も含め学び続けていく必要があると思っています。

○坂田委員
　私も社協さんとか市との関係はどうだったのか最初聞こうと思ったのですけれども、既にいろいろ連携をとられているということですので、やはり市とか社協、それから地域の人達との関係を作りながら、今後の活動に進展していくといいなと思います。
　ありがとうございます。

○原田委員
　その居場所がすごく大事な役割を果たしていると思うのですけれど、気軽に安心していられる場所はすごく大事だと改めて感じました。
　そうであるからこそ、安心していられるようにするための条件がすごく大事だと思います。
　今お２人がメインでやられていると思うのですけれど、収支書を見ると完全にボランタリーでやってらっしゃると思うのですけれど、これから居場所を増やすとすると、さらに仲間がいると思いますし、誰でもできるパーツもあると思うのですけれど、本当にその子どもなり当事者に寄り添おうとすると、誰でもいいというわけではない、コアなところがあると思うのですが、その辺の今後の人材の確保、仲間の確保について何か見通しがあれば教えてください。

○一般社団法人リトルハブホーム
　今回、この補助金を含め、こういったボランティアさんが増えていくことに関し

て、私も子どもの関わりを、200 人くらい 15 歳から 20 歳のお子さんに関わったときに、普通の暮らしが一番大事で、朝起きて、おはようと言ってくれる、本当に近所にいるような主婦がやはり、子どもの育ちに、とても大事な存在だと思いました。子どもとの学びは引き続き必要なのですけれども、あまり過度に専門家とか、これを勉強したからという関わりをすると子どもはかなり敏感に感じてしまうので、まず関心ある人が来てもらって、大人側はゆとりを持って関わる。大人がまず安心して関わるというのが大事と感じていて、私も 15 年くらい考えてたことで、ようやく形になったので、こちらを様々なところに派生していけるような、子どもが安心して行ける場所を増やしていきたいです。今、特にコロナ禍で、やはり行く場所もないし、学童も今 3 年生の半分くらいが待機となってしまう時代らしくて、夜 9 時まで 1 人でお家にいる子も結構いるので、せめて 7 時くらいまでは、毎日子ども食堂ができるような体制を作っていきたい。

○原田委員

とても重要で、習い事してる子どもが多いですよね。鍵っ子のような、そういうところに行けない子どもの居場所がないなというのは本当に感じるところで、そういう子どもを、周りの人たちが支えられるような場というのはすごく大事だと思います。それは制度の隙間になってしまうので、本当に自分でお金を工面したり大変だと思うので頑張ってください。

それと、こういう活動をうまく制度に結びつける工夫をするのがすごく大事だと思うので、子ども食堂なども、昔は補助金を出す自治体はどこもなかったですが、今は出すようになっていますし、これが社会的認知されるってことがすごく大事だと思います。

あと、収支計算書で出資という項目があったのですけれど、これは基金ということでしょうか。100 万円ほど。

○一般社団法人リトルハブホーム

これは家賃が当初かかりましたので、出資とさせていただいてるのですけれど、助成金等で補填するようにしていきます。

○山田委員長

時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

それでは続きまして、純粋館文化を茅ヶ崎市民に発信、茅ヶ崎って素晴らしいに

つきまして、茅ヶ崎純粋館研究会様から説明していただきます。お願いいたします。

○茅ヶ崎純粋館研究会

茅ヶ崎純粋館研究会の日下部と名取で説明させていただきます。よろしくお願いします。

最初に、この会場にいる皆さまにお聞きしたいのですけれども、茅ヶ崎純水館、茅ヶ崎製糸場をご存知の方、自信を持ってあげていただけると。

はい。ありがとうございます。これからもっと頑張りたいと思います。

今から約 100 年前、純水館茅ヶ崎製糸所は、世界トップレベルの生糸を生産していました。

それだけではなく、この館長小山房全は茅ヶ崎発展のために尽力をしていました。茅ヶ崎版の渋沢栄一と言ってもよい人です。

私たちはこの純粋館と純粋館から辿れる人々について、学習、発信、記録、保存に取り組のでいます。

100 年前のことをよく知っている人や繋がりのある人から聞き取り、そしてまとめるのは、相手の方々も高齢となっており、今が最後のチャンスとなっています。

茅ヶ崎育ちも新しく茅ヶ崎に来た人も、茅ヶ崎の素晴らしさ、茅ヶ崎の誇りを知ることで、茅ヶ崎への郷土愛を強めていただけると考えています。

純水館茅ヶ崎製糸所について説明をします。

純水館は大正 6 年から昭和 12 年まで約 20 年間茅ヶ崎の駅の北側にありました大製糸工場です。館長は小山房全と言います。

小山家はもともと長野県の小諸で純水館を経営していましたけれども、縁があって、その小山家が茅ヶ崎で製糸工場を作りました。世界屈指の技術、装置を持ってました。それから、昭和天皇が大正時代に結婚したのですけれどもその時には、全国で唯一選ばれて献上してる製糸工場です。

小山敬三。茅ヶ崎の名誉市民です。それから文化勲章を受賞していますけれども、敬三は小山房全の義理の弟です。それから島崎藤村は小山家ととても深い関係があります。製糸場だけではなくてとても広がりがあるので、私たちは純粋館文化と呼んでいます。

そんな素晴らしい文化なのですけれども、今、ご存知であると手を挙げていただいたのが五名くらいというのがあるので、何とかしたいと思い今活動しています。

最近、活動の成果が見えてきました。

ヤマダ電機の北側のところに 12 月に純粋館の掲示板が立ちました。市長さんも参加されて除幕式がありました。

あの掲示板は私が文章を書いています。

純水館研究会は昨年の 1 月 16 日に設立をしました。会員数が今 30 名です。2 ヶ

月に1回ずつ講座をやっています。

第2回は、「純粋館・房全・敬三・藤村」学び講座という名前です。美術館の学芸員さんにお話をしていただきました。

第4回は、長野県の小諸から小山敬三美術館の元館長さんをお招きして実施しました。共催は茅ヶ崎市の教育委員会です。百名くらい市民にお集まりいただきました。

今回、活動資金として支援をしていただきたいのは、それを研究集録として残すということです。これは発信もありますし、それから記録と保存を兼ねています。デザインは森上さんという方にやっていただきました。

内容としては全部で100ページを予定します。第1部、カラー版資料、それから、第2部は、講座の記録、研究論文、3部につきましては、タウンニュースさんにご理解いただきまして発信をしています純水館物語があるので、これも記載したいと思っています。

成果物は公共機関、それから関係者、それから純水館会員の方、というのは地域のリーダーであったりとか、あるいは研究者などがいますので、その方達がみずから発信するためです。それから市民の皆さまに無料で配布しようと思っています。配布方法はこれから考えます。

一番初めに、会長から郷土愛という話がありました。茅ヶ崎って素晴らしいと思えるものと作りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問コメントがありましたら、ご発言をお願いいたします。

○坂田委員

発表ありがとうございました。質問というよりも本当に応援メッセージになってしまうのですが、すばらしい活動だと思っていて、ぜひ形にしていただきたいと思います。やはり歴史に残る非常な大事な一コマを、次世代に残すことは素晴らしいことで、本当に大事なことで、皆さまのご苦労についても、今日、発表を聞かせていただきましたし、ぜひ良いものを作って残していただきたいと思います。

印刷製本費が100冊になっているのですが、金額の関係でこれ以上難しいかもしれないのですけれど、ぜひウェブサイトで公開してたくさんの方々が見られるような環境を作っていただけたらいいと思います。

それから申請書の中に、収録作成が終わったら、一度活動の見直しをするということが書かれていたのですけれども、大事な活動ですのでぜひこれからも皆さまと一緒に様々な歴史のことを調べながら伝えていくという作業は続けていっていただきたいなと思っております。以上コメントです。

○茅ヶ崎純粋館研究会
ありがとうございます。できる限り皆さまに発信するというのは大事なのでやっていきます。
それから研究会を作った時には、これほど皆さまにご理解いただくと思っていなくて、活動目標を2年間と決めて、そこまで目いっぱい頑張るということで規約を作りました。
けれども、こういうところで多分支援してもらえるかなと思っているのですが、ぜひ次に向け、規約の改正も考えていきたいです。

○山田委員長
他にはいかがでしょうか。

○船山委員
発表ありがとうございます。
私も応援的なコメントになってしまうのですが、先日も、この冊子についての取材をさせていただきました。ただ予算書だけ見ると、かなり簡素な感じで書いていますけれども、週に3回ほど集まって編集作業したとか、相当ご苦労されて冊子を作ってらっしゃるということをお聞きしてまして、最終的には伝承していかなければいけないということで、そのための文献として大事な1冊になると思いますし、富岡製糸工場があれだけ、注目されたのにもかかわらず、茅ヶ崎純水館がそこまでクローズアップされてないということもお聞きして確かにそう感じたところもありますので、ぜひ、今後冊子で終わらずに、2年間で会を解散するということなのですが、茅ヶ崎の小学生、中学生、高校生にも知っていただいて、文化として根づいてもらえるような活動に、これからもなっていただけたらと思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

○山田委員長
ありがとうございます。他にはいかがでしょう。
そうしましたら一つ自分からも質問です。出版事業を通して伝えるべき資料がきちんとまとまることはとても大切なことだと大変よくわかりました。ぜひ、そのようにうまく進めていただければと思います。

同時に、出版にお金をかけると、今度はそれをどのように扱い、配布し伝えるかといった次の展開ができるのではないかと思います。

そこで、皆さまの日頃の活動について、このことを大切に市民のものにしていこうという思いを伝える時の、運営する上でのモットーについて教えてください。このような形で参加者と接し、このような形で自分たちの思いをうまく聞いてもらい、伝えていけるといいなと思っているなど、その日頃の理念とか方針について、ご説明いただいてもよろしいでしょうか。

○茅ヶ崎純粋館研究会

もちろんまだ知られてない、気づいていただけていない方々にこの茅ヶ崎純水館を知っていただくことが第１なのですけれども、それを通して、このあいだは糸取りを小学生としましたけども、最後の最後にサナギが見えてくるわけです。

昔の人たちは、こうやって命をいただきながら生活の糧にしていたということも学べるし、あるいは私たちシニア世代になれば、新しい学びのきっかけとして、昔の生糸についてや、小山敬三の絵についても、素晴らしい絵に触れられる、新しい学びの提供にもなると思うのです。

そういうことを皆さまに気づいていただくように機会を作りながら、やっていきたいと思っていますし、今までも講演会の中でそういう提供をしてきたわけですけれども、今回この冊子ができれば、私達のメンバーの中では郷土会の方とか、そのメンバーの方々もいますので、冊子を持って、茅ヶ崎を紹介しながら、ここにはこういうことがあったのですよ、こういう冊子にこういう資料が載っていますって言いながら、広めていただくことで、役に立つと思いますし、子どもたちにとっても、小山房全の生き方を学ぶことでプラスになると思うのです。小山房全は、修誠といって、誠を尽くしたのですが、小山敬三もその修誠をもって絵を描くということで、生きてきた人たちなのですけれども、これを学ぶことが、若い人たちにもプラスになる、そういう思いを伝えたいということで取り組んでいます。

ホームページとかSNSでも発信をしていて、この前の除幕式も発信しています。今後も、様々な方法で発信していきたいと思っています。

○山田委員長

今伺いまして日頃の活動が、学び合うことをモットーに、その学び合うというところを非常に丁寧に展開されてることがわかりました。ぜひそうしたところはうまく続けていただければと感じました。ありがとうございました。

では時間ですので、質疑応答は以上です。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

以上で予定しておりました8事業の発表が終了いたしました。

それではこれより総括質疑に移ります。

総括質疑につきましては、市民活動のさらなる発展などを目的に、委員の皆さま、団体の皆さま、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられてることについて、忌憚のないご意見をいただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものとなっております。終了の目安は12時15分をとさせていただければと思います。

総括質疑の進行につきましては、山田委員長にお願いいたします。

○山田委員長

皆さま発表、お疲れ様でした。

大変すばらしい発表を伺いましてかなり感動しております。

司会の小西さんや、それから市長のお話の中にも、雨が降って足元の悪い中という話が出てきましたけれども、こうしたプレゼンテーションは雨のあとの、地面が固まる方の意味合いが大変強い場ではないかと思っています。

発表が終わった時点で伺いたいのですけれど、今日発表をされた皆さまの中で、結構緊張しましたという方はどのくらいいらっしゃいますか。

自分のことを振り返ってみますと、緊張するときって大体決まっていまして、人のために何か一生懸命頑張ろうと思っているときにすごく緊張する。自分をよく見せたいとかっていうわけではなくて、これは人のためにがんばらなきゃいけないから一生懸命になります。そうすると、評価がどうだとか余計に気になって緊張します。おそらく皆さまもそういう感覚ではなかったかと思います。

つまり、市民活動らしい緊張感と、市民活動らしい素敵な発表を聞かせていただきました。

その中で、委員会のコメントもありました通り、茅ヶ崎らしさというのは、繋がりで構成されるものが非常に大きいということでした。司会の今の説明にもありました通り、この時間は総括質疑ということよりは、むしろ日頃の悩みをぶつけ合って、何か一緒に解決していくヒントがえられないか、連携に対するチャンスがえられないか、または、パートナー探しの時間にしていただいても結構です。皆さまの発表の中だけでは伝えきれなかったようなことを、ぜひお聞かせいただければと思っております。

ですから質問に対して何か答えるというわけではなく、もっと自由にご発言いただければと思っております。

○ふるさとファーマーズ

今日は皆さまありがとうございました。私たち審査される側も、もちろんしていただく委員も、皆さま足元の悪い中ここに集まって、気持ちは多分一つだと思います。やはり茅ヶ崎を少しでも良くしようという思いで、だから僕は市民活動って本当に希望だなと思ってて、今この現状を何とか変えていきたいとか、ただ何とかしなきゃいけないと思う人たちだったらたくさんいると思うのですけれど、それを行動に移そう。そして、そこに助成金をいただいて、市民の皆さまが税金を使って、活動しようというのはものすごく意味があることですし、本当に希望だなと思っていて、やはりあとは市民活動で私が感じるところは、やはり一つの団体では成し遂げられない。同じように茅ヶ崎を良くしようという人たちが繋がって、コラボレーションしたりとか、新しい創造をしたりとかというのがすごく大事だと思うので、こういう機会を作ってくださったことに感謝しますし、またさらに市民活動がより当たり前になることがすごく大事だなと思っていて、特別な意識の高い人たちではなくて、日常的にその市民が動きながらどうしようこうしようと言って、そこに例えば行政の方たちからお力を借りながら、行政も市民も皆で茅ヶ崎市を良くしていくってことがすごく大事だなって思いましたので、僕はこういう場所を与えられてとても本当に幸せに思っています。ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

トップバッターでまた引き続き緊張したかもしれませんけど、ご発言ありがとうございました。

今の内容に触発されて、ぜひ、私もと思ってる方がいましたらお願いいたします。

○ART ノ TANEMAKi

本日ありがとうございました。

先ほどお話されたお話と被ってしまうのですけれど、やはり私たちの仲間は、ここにいる方たちも同じ志がある仲間だと思うのですけれど、一般市民の中でもこうしたいっていう方がいます。昨日も飲みながらそんな話をしたばかりです。

でも、やはり、どうしたらいいのか。お金に繋がってくるのですよね。

自分たちもさっきからチームの中で話したのが、どうやって継続していけばいいのかといったら、やはり身切りしてきたのです。今まで教育の中で。

なので、端的に言うと、この仕組みがもっと増えて欲しい。

こういう場が増えて欲しいと、皆さま多分願っていると思いますし、まさにこの声を大に市の方にもお伝えしていきたいし、ただ伝えるだけではなくて私たちは、そうであってもやり続ける。お金が入ってこなくてもやり続ける志は、多分ここの皆さま、皆持ってると思います。

まさに私ここに書いたものが真っ赤になっちゃいまして、ここでも、私たちと皆さまと多分つながれることがわかりました。ここはこういうことでつながれる。こうではないかと、あとで少しお声掛けをさせていただければと思ってるのですけれども、まさにこの場があることに感謝をしておりますし、是非とも繋げたいし、どんどん広げたいと思っています。

以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。続きましてどうぞ。

○うみこころ

今日はこのような貴重な機会をありがとうございました。

本当に皆さまの使命感を感じて生きるパワーがすごいなと感動しました。

私たちもどうしてもパフォーマンス活動というと、自分たちが目立ってなんぼみたいに思われちゃうかもしれないのですけれど、でもそういうことではなくて、やはり伝えたいことがあるから、ステージに立って、それを見ていただいたことで、知っていただいたりとかっていうこともあると思うので、こういう舞台も大事だと私は思っていて、なので今日、先ほどおっしゃっていたのですけれど、お力になれることが、きっと私達にもやはりあるかもしれないと、様々な方のお話聞いて思ったので、ぜひ、お金とかそういうことではなく、必要だと思ってくださったら、ぜひお声がけください。

それで一緒によりよい生きる奇跡を届けていけたらと思っています。よろしくお願いします。

○山田委員長

ありがとうございます。その他続いていかがでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

今日ありがとうございました。

本当にこのような機会は貴重だと思いまして、やはり市民と行政とに差があることはすごくもったいないなと思っていて、子どもに関わる行政の方も、思いがありながらも本当悪戦苦闘というか、1 人で 30 ケースとか抱えている。30 ケースというのは子どもの数で、その奥に家族があったり、その人生を考えていかなきゃいけないっていうところでは、かなり厳しいし、仕事というか、公務員の公に勤める、すごく真っ当に働かないとといけないところが、すごくそこで差が生まれちゃってて、今はコミュニティのサービス化と言われてて、そういう仕事、要は市役所に行

くとお客様と呼ばれる、それが孤立化につながっていると言われていて、やはり私たちも、市民の１人として保育園預けるにしても、保育園にお願いしますではなくて一緒に育てましょう、みたいな感じで作っていくのが多分本来のまちだったり村だったりするのですけれど、なかなかそういうことを忘れちゃうというか、今の世の中だと、仕事で疲れてテレビ見て、何食べようで終わっていく人生の方が少し多いのかと思ってしまいます。コロナ禍の中で、そういったところでこういった方々が手を挙げて、自費で身を削りながらやっている中で、こういう基金もすごく素晴らしいと思うのですけれど、やはりそういった根本的なところでは、私は茅ヶ崎に引っ越して２年、３年目になるのですけれど、茅ヶ崎で様々なところに住んだのですけれど、茅ヶ崎市で初めて暮らしてる感があったのです。というのは、今日もたくさんいらっしゃるのですけれど、活動している方も多いし、お店も商売を求めてないというか、自分らしく生きてる方が多いし、市民活動も連鎖してる感じがしてるので、茅ヶ崎発祥でいろいろ始めていけたら、すごくいいんではないかなって感じました。

ぜひご協力いただいて、お金も大事だし、場所も大事だし、情報も全て資源なので、それを連携して循環させるような、まちというのは、茅ヶ崎ができるのではないかなと思いました。ありがとうございます。よろしくお願いします。

○山田委員長

ではどうぞ続いてお願いいたします。

○ちがコレ実行委員会

ありがとうございました。

今日のこの会、私本当は自分がしゃべったら帰っちゃおうって思ってたんです。他の団体さんに申しわけないのですが。皆さまにお話聞いていただいて、質問されたらもう帰っていいのだと思ったので。

でも、最後まで聞いたらすごく面白くて、全然私の知らない世界だったのですけれども、今日皆さまのお話を聞いて、面白いことがたくさんあるって思ったんです。

なので、この場をもっとウェブで配信するとか、本当に何も知らない市民の人がいっぱいいると思うので、知るきっかけになる。茅ヶ崎には様々な課題があって、もしかしたら自分はその課題を解決する何かの助けができるのではないかということを考えてもらえる場のきっかけに、この会はなってもいいのではないかなと思いました。

○山田委員長

ありがとうございます。

この会そのものと、委員会にも宿題が示されたと思います。ありがとうございました。
続いてお願いします。

○傍聴
松本といいます。
午後に発表させていただくのですが、今日やはり午前中から来てよかったと思っています。
今のお話のように私も最初は思ってましたけども、3回目を今回受けるために来たのですが、1回目はやはり自分のことで一生懸命で、自分のことを伝えなきゃみたいな感じで、やったのですけれども、やってるうちにやはり横の繋がりが大事だなと思って、今回もコラボをする仲間を見つけたいというところで、午前中も来ました。素晴らしい活動をしている方が本当に茅ヶ崎には多くて、私は子どものこと、子ども若者応援なので、やはり一緒にやることで子ども自身、参加した人たちにも、他の人を知る、大人を知るということもあるので、本当に横の繋がりでこういう会を年にもう1回くらい、まずそこから始めて、こういう場を作っていただければ、行政と民間の距離も少し縮まるのでお願いをしたいと思いました。よろしくお願いします。

○山田委員長
ありがとうございます。続いてお願いいたします。

○チアフル
今日は貴重な機会をいただきありがとうございました。
今、コラボというお話がありましたが、先ほど申し上げた通りうちは障がいがある子ですが、今までの社会は、障がいがある子ってかわいそうとか、守られなきゃいけないという感覚がすごくあったのですけれども、同じ人間として私はフラットだと思っているので、コラボ、ぜひ障がいがあるとかないとか関係なしに、様々な団体さんと協力してやっていきたいと思いつつ、日頃日中は仕事をしていて、土日は娘の習い事があったりとか、なかなか難しいところもあるのですけれども。障がいのある人たちは、世の中はやはり健常の人中心にできてるのですごく合わせているのです。一生懸命みんなそれぞれ頑張っているので、ぜひその辺もご理解いただいて、様々なところでコラボさせていただけたらと思いますので今後もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○山田委員長

所定の時刻まであと1分ほどですのでどなたかあと1人。お願いします。

○茅ヶ崎純粋館研究会

お金の話をします。

多分皆さま、持ち出しで活動なさってると思います。そのお金については、自分で満足しているんだと思います。こういうことに使えてるのだなと。それがないと、お金というか、活動できないので。

でも、より支援、援助いただけると活動が増えるのですよね。

この補助金は市民がどれだけ知ってるのかというのがあるのです。

実は私が紹介してやりますという一つ団体があるのですけれども、だから、そういうお金をどこに使うかということですけれども、うまくお金をまわしていただけるといいと思います。

それから、最初は申請団体が多かったと思うのです。1個ずつ減りました。なぜやめてしまったのか、それぞれ理由があると思うのだけれども、もしそこの部分で支援をできるのだったら、ぜひその部分、おそらく事情があってやめたと思うのですけれども、多分ここまで来てぎりぎりのとこでやめている。

ということは、思いがあるのだけれども少し引っかかるものがあったのかなというのがあるのですけれど、ぜひ、ここに来なかった人、あるいは知らない人たちにも手を差し伸べる、なかなか難しいのですけれども、そういうことができたらいいと思っています。以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。

時間ではございますが、せっかく一団体ずつご発表ということだったので、いかがでしょう。

○小さな教室カクツクル

ご審査、ともにご参加いただいた方々ありがとうございます。

情報メディアデザイン系の専門も持っているので、皆さまの例えばホームページやSNS、それからフライヤーとかイベントの日程等の共有がこれからできると良いと思います。

これはもう採択のいかんにかかわらずです。同じ地域で様々な市民活動を志高くやっていらっしゃる方と、ぜひ情報交換させていただければありがたいと思います。

またぜひ対面でも展示や、ライブなどにお邪魔できればなと思っております。ぜひこれからもよろしくお願いいたします。

○山田委員長

最後は指名をしてしまいまして恐縮です。

それでは、予定されていた時間になりました。皆さまからのコメントに対し、なかなかリプライをするチャンスがないのですけれども、後程、委員会からの締めの挨拶があります。そこで、お答えできる点については回答させていただきたいと思います。

今日は総括質疑の形でしたが、皆さまからのご発言やご意見、それから貴重な想いや感想なども聞かせていただきました。大変勉強になりました。相互に刺激し合う会になったのではないかと思います。どうもありがとうございました。

以上で総括質疑の時間は終了とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

皆さまありがとうございました。

こちらで本日のスケジュールはすべて終了となりますので、改めて、山田委員長よりご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山田委員長

発表ありがとうございました。

多くの意見を聞かせていただく中で、相互に大変勉強になったなと感じました。

スタート支援の皆さまですので、市のこの仕組みについて、初めて聞いた方、それからこういうチャンスがあればと思って申請書出してみようと思った方が多かったのではないかと思います。正直、このプロセスは少し面倒くさいという声も今聞かれました。そのように思っていらっしゃった方はどのくらいいらっしゃいましたか。こういうプロセス、手続きを踏んでいくのは結構面倒くさいと思っていた方。

ありがとうございます。

今日のこの会を通じて、その思いは少し変わりましたか。どうでしょうか。

思ったよりも楽しいし、こうした現場があれば、様々なチャンスがまたあるというところを感じていただくこと、委員会としてはそこが狙いなのです。

多少面倒くさいプロセスを踏んでいただくのは、市からの補助期間が終わった後に、また別の外部の様々な申請を出すときの練習を一緒にやっていきましょうという意図です。それを課題として与えるだけになってしまってよくないので、この委員会や自治体が、市民活動の皆さまと一緒に企画を考え、申請を作り、どのような提案ができるかということをみんなで一緒に考えていく機会をたくさん作っていきましょうということです。に少しわずらわしいプロセスを経験していただき、こうしたプレゼンテーションにも出席していただきながら、活動を応援していく。そして、1 年間の活動の報告もまたしていただく。それでまたお目にかかるチャンスを

たくさん作っていこうという目的です。そんな思いがあって、こうしたことを続けている次第です。

そこを、今日半日ですけれども、皆さまと一緒に時間を共有することで、私たちも、その気持ちが新たになったと同時に、皆さまにもご理解をしていただけたということについては大変うれしく思いました。感謝ばかりです。

今後の宿題としては、この希望を絶やさないようにするためにはどうしたらいいか。それからお金が続くためにはどうしたらいいか。それからWEB配信やより知ってもらうためのアピールの仕組みをどうしたらいいか。それから共有ツールの活用についてはどうしたらいいか。それから、市民活動の基礎にもなっている、面白い、楽しいといった、こうしたキーワードをどのようなふうに実現に向けて考えたらいいのか。

これはむしろ、私たち委員会にご提示いただいた課題、宿題と感じました。

このあたりは引き続き、年間の議論の中で、委員とともに考えていきたいと思いますし、採択が決定された後、もう一度、報告会の場で、皆さまのお話を聞かせていただくチャンスがあります。

そういった中で、意見交換を続けていくことができればいいなと感じております。

ただ、この点では、こうしたプレゼンテーションの機会ですとか、それから書面で皆さまとコミュニケーションをさせていただくのが、委員ばかりか、事務局や、それから担当課に広がる、残るものでもあるし広がるものでもあります。それゆえ報告の中にあらわれている団体の皆さまの思いというのは確実に他の方に伝わっています。

ただ今後の大きな課題としては、これを広く市民の皆さまに伝えていって欲しいということについては、私どもとしては検討して参りたいと考えております。

すぐ解決できない宿題もありましたが、検討して参ります。

この後、対面の機会でしたので、ぜひこの場で直接、様々な団体の皆さまと情報交換していただいて、午前の部はお開きとさせていただきたいと思います。

皆さま今日は朝からご協力くださいましてどうもありがとうございました。

以上私の挨拶とさせていただきます。

○事務局

皆さまありがとうございました。

冒頭にもご案内差し上げましたが、事業の決定につきましては、3月下旬頃に皆さまに改めてお知らせしますので、よろしくお願いします。

本日、1階のロビーで、サポセンさんの市民活動パネル展示をちょうどやっていますので、ぜひお帰りがけに御覧になっていただければと思います。

以上で終了となります。皆さま、長時間ありがとうございました。

（お昼休憩）

○事務局

皆さまこんにちは。

本日はお忙しい中、また足元が悪い中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより令和5年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーションを開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の小西と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員を紹介いたします。よろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆さまこんにちは。山田と申します。

委員会より冒頭にご挨拶を申し上げたいと思います。

皆さまはステップアップ支援を申請されている方々ですので、この補助制度の仕組みについてはよくご存知ではないかと思いますし、申請の仕組みについてもきちんとご了解をいただいているものと思っております。

その点では、午後のプレゼンテーションでは、全部で5団体の皆さまにご発表をいただきますが、充実した活動のご紹介をしてくださることを大いに委員会としても期待をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

このげんき基金という愛称で運用されています、茅ヶ崎市の制度の正式名称は市民活動推進基金補助事業です。

ですので、基本的には市民の方々の様々な理念、思いに基づく活動を推進するために、自治体として、その活動に資金を提供する、それで活動環境が整備されていくということを目指した制度だそうです。

この制度に基づきまして、私たち委員会の委員は、皆さまの活動を後押しする、応援する目的で、どのような点がよかったのか、そして、その良い点を市の中で実現していただくために、ぜひ応援したいことを自治体に伝える役割です。

従いまして、今日は審査委員という形というよりも、一緒に皆さまの活動を考え、盛り上げ、応援するという立場で、聞かせていただきたいと思います。

その点での質問あるいはコメント等もお届けし、あるいは情報交換をしていきたいと考えております。

これまでも随分長いこと行われてる事業ですので、約170件の申請、採択実績が

あるそうなのですけれども、そうした活動が実際に茅ヶ崎市の中でさらに発展し、まちづくりに繋がっていく、そういった成長が今までもたくさんあったそうです。

ですので、今回のこのきっかけを利用されて、皆さまの活動が充実するのはもちろん重要なことなのですけれども、さらに横の繋がり、横断的な連携に基づいて、茅ヶ崎が素晴らしいまちになっていくことが期待されていると思います。

その点で、ご活躍いただけるならば、なお、ありがたいですし、幸いなことと感じております。

私たちは事前に資料を見せていただきまして、それから今日の発表も伺う中で、1 件ずつに対して、質問ですとかコメントをお届けする時間があります。その中では、ぜひ様々な情報交換、意見交換をさせていただきたいと思っております。

市民活動推進委員会委員をこれより紹介いたします。

原田委員です。原田委員は副委員長をご担当くださっております。

続いて、町田委員。

続いて坂田委員。

そして市川委員。

そして、船山委員。

そして雫石委員。

そして海野委員。

以上のメンバーで皆さまの発表を聞かせていただきたいと思います。

○事務局

また本日はオブザーバー参加として、市民活動サポートセンターのスタッフの皆さまにもご参加いただいておりますのでご承知おきください。

それでは本日のプレゼンテーションの流れについて簡単にご説明申し上げます。

お配りしております冊子の 1 ページを御覧ください。

16 時ごろまでの間に、ステップアップ支援に申請のあった 5 事業についてプレゼンテーションを実施します。

まず時間配分についてご説明いたします。

最初に、申請団体より 8 分以内で事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず終了 1 分前にベルを鳴らします。次に予定時刻の 8 分を経過したところで 2 度ベルを鳴らします。説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員から質問やアドバイスなどを行います。こちらは 10 分程度予定しております。

説明中に、2 度ベルが鳴りましたら途中であっても、速やかに説明を終了していただくようお願いします。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変かと思いますが、円滑な進行にご協力いただきますようお願いいたします。

また質疑応答の途中でベルが鳴りましたらその質疑を最後の質疑とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

皆さまの事業の評価につきましては、市民活動推進委員会が企画書、本日の発表、質疑応答の内容により行って参ります。

評価項目、採点の基準につきましては、冊子の2ページ3ページの通りです。

満点の60％を採択相当と判断する目安とし、予算の枠内で順位に応じて採否を検討して参ります。

令和5年度実施事業につきましては、市民活動推進委員会による評価結果を受けまして、最終的に市長が判断、決定いたします。

採択、不採択等の結果につきましては、事業提案団体の皆さまに書面でご連絡する他、市ホームページ等でも一般に公表して参ります。

また、本日のプレゼンテーションの様子は、市ホームページ、広報紙等で活用させていただく場合がございますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動推進基金、愛称が市民活動げんき基金を原資とする補助金です。市民活動げんき基金は市民の皆さまのご寄付で成り立っております。冊子6ページ7ページに記載されているように、個人の方、企業の方から寄付をいただいております。

また、令和5年度につきましては、ゴルフダイジェスト・オンライン、茅ヶ崎でゴルフ場運営している企業から企業版ふるさと納税という制度を使ってご寄附をいただいております。

皆さまからのご寄附がなくなれば、いずれこの補助金はなくなってしまいます。本日も入口のところに募金箱を用意しておりますので、ご協力いただけると幸いです。

それではプレゼンテーションを始めていきます。

では最初に、子どもの権利を遊びながら知るコラボ学習会につきまして、ふらっと南湖様よりご説明いただきます。ご準備をお願いいたします。

それでは、お願いいたします。

○ふらっと南湖

ふらっと南湖の松本です。よろしくお願いいたします。

私は茅ヶ崎市南湖に、南湖ハウスというところを2021年7月に開設しまして、これまでに2回ご支援をいただいて活動しています。

スライドを作るのが間に合わなくて、こちらにプリントはしてきたのですが、少し見えにくいと思いますが始めます。

自己紹介です。私は里親として2003年に登録して、1人の男の子の里親をやっていました。今年の1月で20歳になったところなのですが、彼に寄り添っていく

と様々な社会的養護の問題、また、子どもの権利というのが、実はそれは子どもの権利からしたら違反だという、言い方は良くないかもしれないけど、わかってないことが私自身もいっぱいありましたし、そんな経験から、子どもの権利を知ろうっていう活動を、今年度はずっとしてました。

前年度も軽くしたのですが、この2年の振り返りも含めて申し上げると、初年度は本当にでき上がったらラッキーみたいな感じで、主に南湖ハウスの室内で勉強会をしていました。

今年度は、南湖ハウスから出て、勤労市民会館で4、5回活動をしました。

何をしたかっていうと、里親の映画を見たり、当事者の社会的養護を出た子たちの声を直接聞きましょうということで、お話を聞くことをやってきました。

そして来年度、5年度はどうしようかといった時に、今年度の活動が基本になりまして、5年度は様々なコラボ、外に出て、イベントに参加してったところ、すごくこれは、子どもたちにとって大事だなというのがあったので、コラボでイベントをすることで、横と横の手をつなぎ合うことがすごく大事だなと思いました。

午前中も実は参加して、様々な団体のこれからやろうという意欲的な活動に耳を傾けたわけなのですが、その中にも同じ思いだなという方も何件かいらして、その方たちもこれからアプローチしていきたいと思っているところです。

では、お手元の資料を見ていただきたいのですが、まず補足資料から説明をさせていただきます。図から説明させていただきます。

85ページになります。

さっき申し上げたように、私は里親をやっている中で、虐待とか、負の連鎖がなぜなくならないのかをずっと考えてきました。

子どもの虐待ということで、児童相談所や警察、家庭児童相談室に保護されて、そのあとどうなるかというところで、保護されてよかった。施設に行けてよかった。実はこれで終わりではなかったのです。

見てきた施設の中では、時間をただ過ごすようなところもあり、家庭体験ができないということが、その後どのようなことになるかということを、今一緒に活動している里子たち、社会的養護を出た子どもたちがたくさん語ってくれました。

例えば、冠婚葬祭はほとんど体験できていなくて、線香のあげ方もわからない、お正月にお餅が出るけど、お餅の存在さえ知らない。なぜかというと、喉を詰まらせて大変なことになると職員の責任になるからという裏の話があるんだよと里子たちは言うのですよね。

だからそういう経験を本当にしていないというのが、施設に行った後の子どもたちの状況だということを一つ覚えておいていただきたいと思います。

しかもこの社会的養護になった期間がすごく実は大事で、私は負の連鎖をとめる。絶好の機会だと思っています。

なぜかというと、そこに、自分の親以外の人たちとの安全な生活を知ることで、20歳過ぎて自分が成人になって、新たに家庭を築くときのすごく参考になるし、自分の虐待されてる家庭が当たり前ではないということをわかることがこの期間にできることなのです。

だから、フレンドホームという活動に、ぜひ皆さま関心を持っていただき、一緒に少しの時間でもいいから参加していただきたいと思っています。

左側のページにフレンドホームを増やす啓発活動とか、そういうことが書いてあります。

今度の活動の内容ですけれど、下の方に目的効果についても書いてありますように、今の社会的養護負の連鎖を止めるために、この五つのことがとても有効に働くというのがお伝えしたいことです。

ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントをお伝えしたいと思います。質問、コメントある方はご発言ください。

それでは私から一つ伺います。

今回の目玉で、コラボ学習がありました。これは、これまでの反省と展開に基づいて大変よくわかりますし、素晴らしいものだと、最初の書類からもよくわかりました。今回、このコラボ学習の経験を通じて、皆さまとしてはどのような蓄積や、次の展開に向けた準備に繋がっていくとお考えでしょうか。

イメージや展開の可能性についてまずはお聞かせいただけますか。

○ふらっと南湖

例えば、BとDについては、子どもの権利を知る、Bについて特に言いますと、日米でこういう社会的養護の研究をしてる団体なのですけれども、かなりレベルが高いです。

日本の施設で使い切れるかというところもあるのですが、これを使うことで、銀行の通帳はどう使うのかとか、結構細かく書いてあるので、一般の子どもたちもすごく勉強になるのではないかなと思って社会的養護に限らない使い方ができると思います。だから市民の方もぜひという感じです。

あと、Cのお金、湘南学習のすすめはもうすでに1月にやったのですけれども、

お金はなかなか学校教育ではないのですけれども、二重構造になっていて、一般の大人がやるのもすごく勉強になります。

あと子どもの権利も最初に申し上げたように、本当に大人が知らないと思うのですけれど、楽しくできるので、小学校中学校の生徒と一緒にやると意外とこのようなことなのね、みたいなことがわかるのではないかと思っています。まだ私もやってはいないので、周りの人と始めたいなと思っています。

あと性教育についても、日本の教育ではすごく腰が引けた状態になっていますが、これもすごく大事で、今週ですけれど 17 歳でお母さんになった方がいらっしゃいました。やはりその背景には、親の反対を押し切って、みんな中絶しろって言たのだけど、彼女は産みたいということで産んで、そのあとどうするのかというところは、やはりみんなで考えることではないかなと思うので、いろいろと南湖ハウスを初めてやっと 1 年半、そういう方がちょこちょこと訪れるようになったという現状があります。

○山田委員長

そうしますと、コラボという今回の経験を通じて、伝えるべき情報が充実するのと同時に、この活動団体の皆さまの側の発見や、次の展開に繋がる非常に良い蓄積が期待されていると理解できそうです。ありがとうございます。

続いて御質問ご意見コメントいかがでしょうか。

○坂田委員

発表ありがとうございます。

本補助金ではスタートアップと、次のステップアップで今年がステップアップ 2 年目ということで、全部で 3 回目という形だと思うのですけれども、通常の活動、それから補助金を使って行う事業、それらを総量で見ると、ふらっと南湖さんとして、どういう位置付けとしてこの補助金を使っているのかお聞きしたいのと、それから今後の自主財源の確保について、何かお考えがあれば伺いたいです。

○ふらっと南湖

お手元にお渡ししたものが南湖ハウス通信です。毎月報告と予定をお送りしています。これは市議の方にもポスティングしています。

少しずつですがそういう方も会に出席していただいたりして、1 団体がどうのこうのではなく、これは社会問題なので、市議や市全体と一緒にやりたいのですが、例えばその左下に書いてある、さっきフレンドホームのことを申し上げたのですが、そういう施設の方で同じ思いを持ったところを発見することが去年もできまして、これから一緒にやっていければいいと思ったのですが、日々はボランティアで行っ

て、要は関係性を作っていくっていうのが日々の活動になっていくかなということと、後、今回の事業、今回の申請は、一番下に書いてある市の支援をいただいていることを書けるかどうかが、実は私はすごく大事と思っていて、市民の方が安心して読めるのです。だから、これはすごくありがたいことだなと思っています。

あと、お金の面については、クラウドファンディングのお金が、また残っているのでそれを資源にして活動しています。

右上にある最近できたビデオなのですが、パチッと読み込んでいただけると見えるようになっています。

それは10分くらいのビデオになっていまして、南湖ハウスの様子がすごくわかりやすくまとめられていますので、後程見ていただければと思います。そういうものは、クラウドファンディングでいただいたお金を元に作らせていただいています。

○坂田委員

ありがとうございます。クラウドファンディングをやられているということですけれど、やはり基礎財源を確保することがすごく重要で、イベントは助成金でやりくりはできるのですけれど、通常の組織運営の部分で、基盤となる固定費の確保など、そういう意味では、やはり会員を増やしていくとか、寄附者を募るとか、そういったことがすごく重要ではないかと思うので、事業をやりながら並行してやるのは大変なのですけれど、そこをもう少し力を入れてやっていただけるといいと思ったのですが、会員さんは増えていらっしゃいますか。

○ふらっと南湖

会員さんが何人かいますがまだ10人以下で、今年度の予算の中で、パンフレットを作ると書いていまして、まだ制作中なのですけれども、私がすべてライターはできないので、少しお願いしながら協力を得ているとこです。

そこにも会費とかを書いて作り直してるっていうところです。

○坂田委員

立ち上げから3年の間というのはすごく大変ですが、でもその次のステージに上がるために非常に重要な期間でもあるので、大変だとは思うのですけれど周りの人の力をうまく使わせてもらいながら、着実にステップアップしていただけるといいと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

質疑応答の10分が経過するようですので、質問コメントを以上といたします。

ご報告どうもありがとうございました。

○事務局
ありがとうございました。
それでは続きまして、女性防災会議、防災ブレイクスルーにつきまして、マザーアース茅ヶ崎様から説明していただきます。
ご準備をお願いいたします。
それではお願いいたします。

○マザーアース茅ヶ崎
何かが足りないということで、女性たちが何だろうということで集まって、そして、愛情が足りないなという話から、マザーアース茅ヶ崎が立ち上がりました。
そして、基本的に3.11のこともあって、大川小学校での子どもたちの悲劇がなぜそうなったのかということうから、女性たちは何かできなかったのかというようなことも題材となって、様々な先生方のご協力添えで、イベントをやったり活動を続けております。
まずはそういうことで、立ち上がったのですが、昨年度やっていた、アンガーマネジメントの本質を知るというをやり始めたのは、結局、様々な会議での中の心理的安全性の確保がされていないと私たちそう感じています。
そして、ごく普通の地縁団体の会議の上層部の方たちが持っている、こうあるべきという考え方が、新しい視点を阻害しているというところがありまして、それは心理的安全性を確保する上において、非常にマイナスになるのでは、そういう意味で、私たちは昨年度にアンガーマネジメントを学ぶいくつかのイベントをさせていただきました。
そして、そのイベントも、例えば若いお母さんたちが子どもたちに対する心理的な怒ってしまうっていうようなこともやりましたし、反対に60才以上限定で、自分の中からそういう怒りがあるのかということ、その本質が本当は自分があるべきということだ、ということもみんなで勉強しました。
何回かやった中で、非常に高齢者の方たちの反応がよかったことが驚きでした。
そういうことだったのかということが、高齢者の方たちがすごくわかってくださって、今後様々な会議等で非常に生かせると感じております。
そして、今後は、女性防災会議といいまして、アンガーマネジメントからの学びを生かして、人々が災害に立ち向かう時に必要な利他的な愛、大きな愛です、そういうものを中心に、災害に対して心の準備をし、そのものと向き合う行動をとっていくと考えております。
その周知活動として、今後しっかりとやっていきたいということで、女性視点で

考える防災ブレイクスルー会議ということをやりました。

趣旨としては女性の視点と知恵を生かした災害時の不安解消に向けた女性防災会議です。女性が女性だけで行ったのですが、そのことによって女性たちが様々な考え方をたくさん持っているっていうことがすごく明確にわかりました。

そして、その中には、本当に日々の生活から生かされていく、これは防災に必要だと思うことが隠されていて、すごく皆さまがそれぞれ勉強になる。

そして、そこに出席している女性たちが本当にアグレッシブになっていく、自分ごととして、どんどんどんどん吸収して、そういう方向に向かっていくことがすごく新鮮でありうれしかった印象があります。

昼間の発生に関して言えば、どうしても女性たちが中心にならざるをえないと考えています。

なので、女性たちをどういう形で、自分ごととしていただいて、防災に関して参加していただくかということを、今後、しっかりと前に進めていきたいと思っています。

女性防災会議で、今トライアルとして、2回やってみました。8月と12月に2回やってみたのですが、非常に反応がよかったです。

1回目は私と、救急救命士の方とのコラボでやりました。それぞれ、皆さま本当に食いつきがよく、非常に内容はよかったと思います。

そして2回目は、3人のプレゼンターがいまして、やったのが、災害から命を守れた後にすべきこと。つまり、被災した後に、国、行政からどのような支援が受けられるかとか、被災から復興にかけての流れを知ることによって、自分ごととして今何が足りないかということをわかっていただけるというような考え方のもとでこういうことをやっております。

地域ごとに、クラスター地域があったり、河川の氾濫だったり、様々なところがあるので、そこに対してのプレゼン、お話をしたりとかしています。

とにかく女性たちの能力を生かしたいと思います。

ありがとうございます。

○事務局

それでは質疑応答に移ります山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問コメントがありましたらご発言ください。

○原田委員

発表ありがとうございました。

言いにくいことかもしれませんけど、やはり地縁組織といえば男性中心の社会で、若者とか女性とかあるいは移住者とか、そういう人たちの発言、役割はすごく限定されがちということはすごく大事な問題ですし、それに対してどう行動するか、やはり声が上がらないと次に進まないので、こういう問題提起とそれに対する具体的なアクションはとても大事なことだと感想を持ちました。

ただ、そうであればこそ、私もこの具体的な取り組みを存じ上げないので、的外れかもしれませんけど、震災が起こった時に、具体的に、例えば高齢の女性で、これはもう１人では無理だと思われる人に対してどう逃げ出すサポートするかとか、避難先で炊き出しなり物品の手配なり、あるいは一般の物品が届きにくいような女性に必要なものとか、コロナ禍で必要なものをあらかじめどう想定しておくかとか、その具体のアクションに結びつけることがとても大事だと思うのですけれど、その辺の取り組みは何か考えることありますでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

例えば８月にやった女性防災会議とか海岸地区でやったものにおいては、避難所運営方法とか、要支援者の支援に対する方法するようなことを入れ込んでそういう勉強も一緒にしています。

○原田委員

町内会や婦人会などの具体の現場にこれを落とし込むということをされてるということでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

落とし込んでいきたいです。

地域にはそれぞれ自治会の防災部会がありますので、そういうところに一つ一つ落とし込んいでいくことが重要だと思っています。

○原田委員

ぜひご検討いただければと思います。

○山田委員長

続きまして、質問コメントをお願いいたします。

○雫石委員

私が感じましたのは、地域で活動、自治会とか推進協社協等で活動してて、物足りないということで、新たに始めたと思うのですけれども、女性だけで活動すると

いうのはこれまで私もあんまり聞いたことがなくて、素晴らしいことだと感じてるのですけれども、この補助金よりも、各地域の団体がありますので、そちらから、全部で13地区ありますので、幾ばくかの協力金を得て、茅ヶ崎全体の取り組みとして、女性だけで運営するというような取り組みで、もっと拡大していった方がいいのではというように感じたのですけれども、その辺はどうでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

最終的には、13地区で認めていただけるとすごく嬉しいのですけれど、とりあえずは海岸地区でモデルケースではないですが、一つの例として、女性防災会議を広めていって、今度また違うところでやるのですけれども、そうやって地道に一つ一つ積み重ねていって最終的には、13地区、茅ヶ崎市全部で共通の認識として持っていただけたらと思っています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

私から一つ伺います。

今回のこの取り組みは、今までのアンガーマネジメントの経験を生かして、その発展系として、防災ブレイクスルーに繋がった経緯はとてもすばらしいものだと思いました。

ここからが質問です。その点で考えますと、防災において認知のバイアスが実際の被害の拡大に繋がるということは大変よくわかります。皆さまの活動の中で、そのような認知の広がりをどのように測定し、それから、そのような活動の成果を皆さまなりにどのように意味のあるものとして裏付けるのか、こうした皆さまご自身の活動の評価を、どういう形で公表していきたいか、これが大事になってくると思います。この取り組みについて、もしも今お考えになっているところがあれば、つまり、どのように発展してどのようにそれを評価していこうかというところでアイデアがあればお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

できれば各地域の大きな合同防災訓練があるので、そういう時に結果が出るのではないかなと思っていて、なぜなら海岸地区でたった1回だけですけれど先ほどの女性防災会議をやった時に、避難所運営から何から全部やったのですが、そのあとに大きな合同防災訓練がありまして、女性たちが、意見をすごくビシビシ出して、動きも自信に満ちていたのが私は衝撃的でよかったと思っていて、それをおっしゃっていただいたように、どんどんどんどん広めていければいいと思うのですが、それにはやはり回数を重ねて、私達がこういう活動をしているという周知を続けてい

くことが必要だと思っております。

○山田委員長
　そうした具体的な声や、姿、また様々な変化みたいなところが現れてきて、それは皆さまにとっても大変喜ばしいことだと思います。ぜひそうしたところをうまく残していけるような、そういったところもあわせてお考えいただくと、この企画はいいのではないかと感じました。ご回答ありがとうございます。
　続いて他にご意見御質問ありますでしょうか。

○坂田委員
　発表ありがとうございます。
　この事業企画書の 89 ページなのですけれども、毎月は無理だったというようなことがあって今回は 1 ヶ月おきに実施予定とありました。
　昨年度を踏まえて今年度は事業の実施回数を少し減らしたと判断してよろしいですか。

○マザーアース茅ヶ崎
　はい。

○坂田委員
　もう一つなのですけれども、予算に団体の PR パンフレットを作りたいと書かれております。こちらの団体 PR のパンフレットはどのようなものを想定しているか教えていただけますでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎
　23 年度からやっていく女性防災会議の基本的な考え方と、今までやってきた実績を入れ込んだものを作ってみたいと考えています。

○坂田委員
　そのパンフレットはどなたかに委託して作成ですか。自分たちでですか。
○マザーアース茅ヶ崎
　デザインとかは私たちがやると思います。自分たちでやってその印刷を印刷屋さんに出していく予定です。

○坂田委員
　わかりました。枚数どのくらい発行の予定ですか。

○マザーアース茅ヶ崎
　できれば１枚でも多く印刷したいです。いくらでできるかが内容によって変わってくると思うので、そこら辺は考えて範囲内でやっていくしかないので。

○坂田委員
　予算が限られてるので、予算の範囲内ということになると思いますが、事業を盛りだくさんやっていく中で、パンフレットの制作というまた別の力を必要とされると思いますので、ぜひ１年間のスケジュールをしっかり組んで、年度内でしっかりすてきなものができ上がるように取り組んでいただければと思います。

○山田委員長
　それでは質疑応答の時間が終了いたしましたので以上とさせていただきます。
　ご発表どうもありがとうございました。

○事務局
　それでは続きまして、スローコミュニケーションプロジェクト、小冊子制作及び音声認識の店舗実証と合理的配慮の市民周知事業につきまして、一般社団法人4Hearts様よりご説明いただきます。
　それではお願いいたします。

○一般社団法人4Hearts
よろしくお願いします。
　私自身生まれつき重度の聴覚障がいを持っていますが、今お聞きの通り、綺麗に話せてしまうというところがありまして、聞こえる世界にも聞こえない世界にもなかなか入れなかった。
　狭間を歩いてきたところから、情報コミュニケーション障がいと聴覚障は言われるのですけれども、そういった社会課題を見つめてスローコミュニケーションプロジェクトというものを提唱させていただきました。
　その流れの中で、今回申請をさせていただきました。
　私たちの団体は一般社団法人でして、このような組織体制になっております。
　結構バリエーション豊かなのですが、例えば、在日三世の方や、難病やガンの当事者、あと、ブラインドサッカーをやっている人など様々な人がいます。
　情報コミュニケーションからだれ１人取り残されない社会を目指していて、そのためには越境コミュニケーションが必要だと思っています。
　スローというのは、相手の事情を一歩想像すること。心のゆとりを持って、コミ

ュニケーションを取っていこうということになります。
狭間を行きながら考えたことが、聞こえない聞こえにくい人の課題というのは、例えば、様々なことに意味を感じてしまったりとか、わかったふりをしたり、諦めてしまったり、情報が入らないことは判断ができない。判断ができないと行動が起こせないし、最終的な意味が描けないというところになっています。
聞こえない人は見た目でわからないので、そういった人がいる存在自体を知らない。
どう対応したらいいかわからない。どこまで伝わってるのかもわからないし、なかなか自分ごとにならないがあります。
そこを繋いでいくためには、地域の人にヘッドフォンで聴覚障がい体験をしていただいて、気づきスイッチを知ってもらいます。
そうすることによって、もっと自分事化するし、そういう人の存在を察するとで、もう少しこういうことをやってみようとかってなります。
バリアを感じている人は、様々なことにずっと諦めてきてしまっているので、社会的な資源だったりとか、もっとこうしたら生きやすくなるという可能性を知らないし、調べようともしないです。
なのでそこを教えたりとか、一緒に感じていった中で、諦めを勇気に変えて、もってやってみたいと社会に出て行けるようになります。
そこで初めてコミュニケーションが生まれるんではないかと思っています。
世界を変えるためにはハード面とソフト面、両方変えなきゃいけないなと思っていて、もっとテクノロジーを活用して、音声認識とか、字幕の透明パネルだったりとか、そういったことも活用し、今お手元にまわしていただいている指さしメニューもそうですが、それを活用しながらやらなければいけないなと思っています。
ただそれだけだと、設置がゴールになってしまいなかなか活用されません。
そのために意識を、それを使うことによって助かっている人がいるということを知ってもらうソフト面の研修もセットしないと、なかなか活用されないので、そこをやっていこうとしています。
企業など様々なところと契約していこうとします。
昨年の 9 月に茅ヶ崎市立図書館でワークショップをやりまして、見えない聞こえない、話せないということを実際に体験しながら、本を探すイベントとなっています。
これはそれぞれができる役割を持たせて、障がいへの理解、自分がうれしかったことをその場で経験するようなことを小学校 2 年生でも経験できるので、子どものうちからそういう経験をしないと、障がい者に対する遠慮が生まれてしまうので、子ども向けの様々なワークショップの活動もしています。
最近の挑戦としては、合理的配慮が民間企業に義務化来年されます。様々な法律

もできましたし、2025年にはデフリンピックが東京で開催されます。
　そういった時勢の中で、私たちが合理的配慮の活動を実施し、これから商工会議所も勉強会を開催するということで、講師をやらせていただくことになりますし、茅ヶ崎市役所にも研修をやらせていただくことになりました。
　そういった中で、今までスタートアップステップアップで助成金をいただき、ホームページを作ったりしました。
　今年はそのコミュニケーションプロジェクトのサイト作成の費用をいただきました。
　来年度の助成金は、それを持続できるようにしたり、茅ヶ崎市民にもっと周知していくってことが非常に重要になっていくと思ったので提案をさせていただきました。今まではこういう感じでやってきたのですけれども、これからはもっと良好事例を集めたり、図書館のイベントについても、全国から今問い合わせが来ているのでそれをパッケージ化させて、全国で開催できるように、今年は茅ヶ崎市立博物館にできたらと考えていて、シリーズ化できたらいいと思っています。
　特に今年はそのまちの中のサービス、現場に対して、もっと他のお店との差別化も図れますよというようなコンサルティングができたらいいと考えています。
　今回は小冊子へこの活動の内容を見せていきますし、あとワークショップも、もう少し音声認識を活用したいなと思っています。
　合理的配慮についても、まだまだ民間ではご存知ないことが多いのでそこのところの相談も受けられたらいいなと考えています。

○事務局
　ありがとうございました。
　それでは質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長
　それでは委員からの質問、コメントをお願いします。

○原田委員
　報告お疲れ様でした。
　情報コミュニケーションを通じて様々な社会的な困難を解決しようとする姿勢はすごく新しいし魅力的だなと感じました。
　そうなると、情報コミュニケーションのための様々なツール、例えばウェブ作成、情報発信するためのデータ整理など、情報リテラシーの知識を運営側が持ってないといけないと思うのですけれど、そういう力量、ＩＴスキルをメンバーの方はお持ちなのでしょうか。

○一般社団法人 4Hearts
　私達のメンバーの中には、IT の技術とか知識を持っている人はそこまでいないです。ただ、デジタル推進委員というのがいまして、もう少しできたらという思いはあります。
　去年、神奈川大学さんと茅ヶ崎で実証実験をやりまして、どこに字幕の透明パネルや、音声認識が、あったらいいのかという研修はやりました。

○原田委員
　IT スキルそのものよりも、それをどう生かすかに活動の力点があるのだと思いましたが、ただ、やはり今回もそうなのですが、ウェブや冊子のデザインにかなりお金がかかる、そういったところを基本的に外注される運営だと思うのですけれど、そこはなかなか経営面で持続可能ではないような気がします。
　冊子なり、前回の Web というのは、様々な助成金をもらってやられたと思うのですけれど、今回も申請されていますけど、こういう外注のスタイルを今後も続けていかれるお考えなのか、どこかの時点で内製化できるようにしたいと思ってらっしゃるのか、その辺の方針をお聞かせいただきたいと思います。

○一般社団法人 4Hearts
　私自身が露出していかないといけないところがあるので、そこは外注にするのですけれども、それプラスアルファの効果があると考えています。

○原田委員
　そうすると、今回 50 万近い経費が委託で出されると思うのですけれど、例えばこの助成金の次のステップのときにも同じようなお金かかると思うのですけれど、それは様々な助成金にトライしていくというお考えですか。

○一般社団法人 4Hearts
　小冊子に関しては、コンサルティングをやりながら、協賛金を得て出版する、継続的な資金を取っていきたいと考えています。

○原田委員
　わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長
　他に委員からの質問コメントはありますか。

○坂田委員
発表ありがとうございました。
茅ヶ崎市の補助金は最終年度ということになるかと思います。
先ほど原田委員からも話がありましたように昨年はWebで今年度は冊子という形ですけれども、これで茅ヶ崎市の補助金は終了ということになります。
一般社団法人を立ち上げて数年経っていると思うのですが、今後の団体としての方向性、それからスケジュールについて、ここまで来た時点で、どのようにお感じになっているか。これから先しっかり法人として自立していけるかどうか、どのような計画をお持ちなのか、もう一度ご説明いただいてもよろしいでしょうか。

○一般社団法人4Hearts
商工会議所の方から合理的配慮の勉強会をやって欲しいと要望があります。そこからコンサルティングにもつなげていきたいと思っています。
さらに、茅ヶ崎市立図書館でやった事業のパッケージ化でお金をいただいて、パッケージをお渡しすること。さらに、コンサルティングでやったものをウェブサイトに載せることによって、もっと相談や、コンサルを受けたいという人がどんどん出てくるような感じにしていきたい。
最終的には、字幕のパネルとか、スマートグラスなど、そういったもののショールームなどをしたいと思っています。

○坂田委員
ショールームまでできるとかなりPR促進にはなるかと思います。が、やはりまだ資金が重要になってくると思っています。
他の助成金の経験があると思うのですが、助成金がないと活動できないということにはならないように、自立に向けてうまく企業さんとコラボレーショできたらいいと思っています。
少し先々のことを考えて、実績も着実に作っておられるようですので、一歩一歩進んでいっていただければと思います。
茅ヶ崎市も聴覚障がいの皆さまの連絡協議会があると思います。平塚でも、聴覚障がいの方、それから視覚障がいの連絡協議会の皆さまがすごく活発に活動されてるので、そういったいわゆる当事者の皆さまとのコラボレーションは、今まであるのかどうか、追加質問で伺ってもいいでしょうか。

○一般社団法人4Hearts
私自身が聴覚障がい者協会に所属していて、平塚ろう学校と、昨年は青年会議所

に所属していたので、そこの方と一緒に活動したりしました。
図書館のイベントでも、聴覚障がいに限定したものではなく、発達障がいとか視覚障がいとか様々な情報コミュニケーションバリアの方がいるので、その方達をカバーしていけるようにと思ったときに、ブラインドサッカー協会さんと、茅ヶ崎バオバブさんとコラボしていて、今月末バオバブさんの高校生と大学生に向けて図書館で研修をしようとしているところです。

○坂田委員
そういった横の繋がりが少しずつメンバーも増やしながら、広げていっていければと思います。

○山田委員長
最後に私から伺います。冒頭の原田委員の質問に対して、外部資源をたくさん有効活用しながら、活動を展開していく方針が非常に強いことはわかりました。ただし、活動が充実してくれば、自分の団体の理解者、それから自分の団体の活動を支えるメンバー、思いを共有するメンバーの充実育成も同時に必要になってくると思います。
そこでこれまでのこの補助制度での活動を通じて、そういった団体内の人材育成や人材活性化の様子で宣伝していただけるころがありましたらお聞かせください。

○一般社団法人 4Hearts
聴覚障がい体験をすると、皆さんこれはやってみないとわからないとおっしゃられて、そういうことなのかってわかる方がいらっしゃいました。
あとは中途失聴、去年の市役所の１階ロビーで３日間相談会を開催した時には、コロナ禍でマスクをするようになって職場でコミュニケーションがとれず、それで心を病んで、仕事をやめてしまった方が、勇気を出して相談会に来られて、泣きながらおっしゃってたんですが、そういった方々もいるので、一つ一つそういうことを開拓していくことも大切ですし、最近は図書館でのイベントだけではなくて、日常の中での相談が今増えてきています。
そこから理解者を増やしていく、特に、今年テーマにしているのが、私が伝えることには限度があって、コアメンバーさんとかそういう人たちを増やして、その人たちがその外側にいる人にどうやって伝えるか、そこをスムーズにする必要があると思っていて、そのためには、動画で何かを伝えられるようなコンテンツをどんどん作っていくことが大切ではないかということを、今話し合っています。

○山田委員長

ありがとうございます。
では以上で質疑を終了いたします。どうもありがとうございました。

○事務局
ありがとうございました。
それではここで休憩に入りたいと思います。
再開は予定通り、50分とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

（休憩）

それでは、再開させていただきたいと思います。
続きまして、譲渡会、保護犬を知ろう、幸せ家族探し会につきまして、湘南1Leben様から説明いただきます。
それではお願いいたします。

○湘南1Leben
お願いいたします。
私たちは譲渡会、保護犬を知ろう、幸せ家族探し会という事業を行います湘南1Lebenです。
スライドにてご説明をさせていただきます。
簡単に団体概要をご説明いたします。
設立年月日は、2019年3月1日です。その辺の情報は、手持ちの資料を参照ください。
今から御覧いただく映像は、2020年9月に茅ヶ崎某所で起こったブリーダーによる、多頭飼育崩壊の現場を一部撮影したものです。
犬の大会に出場させるために飼い始めた日本スピッツが、飼い主の体調不良による飼育放棄、犬に関する知識不足など、様々な理由でここまでの状況になってしまいました。
このように、狭い部屋には複数の犬が閉じ込められたままになってしまっていました。また、エアコンもない猛暑の中で飢えをしのぎ、トイレの水を飲んで生き延びていられていました。また衛生管理ができておらず、床にはたくさんのフンが落ちていました。与えられた餌を必死に食べる様子からも十分な食事が与えられていなかったこともわかります。
これが実際の写真になります。
先ほどの動画同様、劣悪な環境とケージに閉じ込められる犬の写真があります。右上の写真のように、トリミングなど、手入れ不足によって、毛が伸び切り変色し

てしまった子もいました。
　他にも多くの子がノミやダニによる皮膚炎になってしまっていたため、当会にて、下の写真のように、入念なシャンプーと不清潔な毛のカットを行いました。
　このような事例の他にも、山口県の保健所に収容され、命の期限が決まっていた子や、奄美大島での多頭飼育崩壊の子たちなど、累計 100 頭を超える犬を現在までに保護しています。
　続いて、当会で保護した犬の現在の写真です。今まで紹介した子達は、上の 4 枚の写真になります。
　続いて、日常風景についてご説明いたします。
　こちらの記載にある通りに、24 時間体制で世話をしております。
　その中でも、散歩、掃除の様子を動画にまとめました。安全面に配慮し、ほとんどの犬には、２本のリードをつけて散歩しております。散歩に慣れてない子は暴れてしまったり、進まない場合もありますが、声掛けをしながらゆっくりと散歩をさせています。
　また、毎日複数人で、2 時間以上をかけて徹底した掃除を行っています。
　続いて、今回の事業についてご説明させていただきます。
　私たちは、譲渡会及びその中での啓蒙活動を行います。
　日程は、各月第 3 または第 4 日曜日と、不定期開催を合わせた計 9 回、場所は茅ヶ崎ペットフォレスト、中央公園など、茅ヶ崎の様々な場所で行います。
　その他の情報は、お手持ちの資料をご参照ください。
　譲渡会では、写真のように啓蒙活動や募金活動、グッズ販売など行っております。
　これは実際に、茅ヶ崎ペットフォレストで行った譲渡会の動画になります。
　このように、ケージの中に犬と人が入り、ご来場いただいた方に、犬を直接見ていただく場所を設けております。
　続いて、事業の広報についてご説明いたします。
　こちらのスライドには半年以内に新しく募金箱とポスターの設置をさせていただいた協力店の皆さまの写真があります。
　写真左側の里親さん募集のポスターは、随時写真の変更が必要なため、約 50 店舗の協力店に、その都度ポスターやチラシなど置いていただいております。
　また右側の写真のように、今までは SNS のみで発信していました。
　イベント情報をチラシ化することによって、知名度アップと来客数の増加を図ります。
　続いて、収支予算書についてです。
　しつけ教室は、ご来場いただいたすべての方に無料で犬の飼い方について学んでいただくために開催いたします。
　タープテントと、今まで借りていた物品を購入することにより、より充実した会

にしたいと考えております。
　また、ケージはこちらの動画を御覧いただきますとわかるように、高さが違うものや、古くなってしまったものもありますため、高さのあるケージを購入することによって、安全性を高めます。
　またハーネスにつきましては、参考の動画でも御覧いただきましたように、暴れによる老朽化が激しいため、今後は、破損前に交換を行うべき行うべく、購入いたします。
　また、印刷製本費は、こちらのような写真にも使用いたします。
　今まではＴシャツ等の物品を購入いただいた方だけに差し上げておりましたが、今後は欲しい方全員に配布することを目標にしております。
　こうして私たちは、全国の様々な理由で保護した犬たちを新しい家族と出会うため、日々尽力しておりますが、なかなか厳しい現状であります。
　現在ボランティアや支援者さんなどに協力いただいておりますが、今後は法人化して、少しでも活動の幅を広げられるようにしていきたいと思っております。
　そしてこの現状はたくさんの皆さまにご理解いただけると幸いです。
　この活動がなければ人知れず失われた命その命が今、家族に愛される喜びを知り、幸せな犬生を歩いています。
　私たちはこれからも、信念を絶やさず地道に活動していきたいと思っております。
　本日はお足元の悪い中お運びいただき、またご清聴いただきありがとうございました。

○事務局
　それでは質疑応答に移ります山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長
　それでは質問、コメントがありましたらご発言ください。いかがでしょうか。

○海野委員
　発表ありがとうございました。
　細かいところで申し訳ないのですけれども、今後の展望、114 ページのところで、私はよく存じないのですが、ペット産業の現状というのは、どのようなことを指しているのでしょうか。

○湘南１Leben
　ペットショップ産業、さっき御覧の通りスピリッツ多頭飼育崩壊ありましたが、ああいう子たちです。ああいう母親たちから生まれてる子が、皆さまかわいいと思

われてると思うのですけれども、ペットショップに並んでます。
ひどい劣悪な環境です。最近はメディアでもやっと取り上げられるようになったのですけれども、本当にひどい状況です。

○海野委員
収支予算書の中で、当団体収入から充当されてる部分があるのですけれども、会則を見ますと、特に会費収入とかの記載がなく、自己財源がどこにあるのか、どういうところが団体の収入としてあるのでしょうか。

○湘南１Leben
里親さんなどから、寄付金、協賛金という形でいただいています。
会員さんからの会費というのはなく、ボランティアさんも過酷な作業なので、できるだけそれは考えてないでいます。
なので全国からいただいてる寄付、ほとんど入らないのですけれども、イベント、茅ヶ崎もイベントが少なくなってしまいましたが、そういったイベントなどで、募金箱という形でいただいています。

○海野委員
これもよくわからないのですが、去年、わんにゃんマルシェ実行委員会が補助を受けていましたが、その団体との関係について教えていただけますでしょうか。

○湘南１Leben
そちらも私が代表になります。
わんにゃんマルシェは、もともと湘南１Leben が最初で、どこの団体も厳しい状況で、様々な団体たちを呼んだある意味、イベントの団体と思っていただけたらと思います。お世話などはしてません。母体はこちらです。

○海野委員
ありがとうございます。

○山田委員長
続きましてお願いします。

○坂田委員
大変なご苦労の活動本当にお疲れ様です。
3 年間のコロナ禍の中で、犬だけでなく、猫も、また、空前のペットブームで今

年は特にウサギがどんどん捨てられてしまうだろうと言われるような、人間が自分の好き勝手で動物を飼い捨てていく現状は何とかしなくちゃいけないなと私も日々感じているところです。

こういう動物愛護の活動というのは寄付金がすごく集まりやすい活動で、私も様々な動物愛護団体見ているのですけれど年間100万円くらい寄附をいただけているので、そのやり方を後で共有できればと思います。

命を扱う活動だけに、皆さま本当に思いを寄せてくださるので、活動がなくなってしまうと本当に大変な事態に発展してしまうので、やはり人に対しての普及啓発と命の大切さを教える、学んでもらうというところと、それから、命を守るという両輪の活動がすごく大事になってくると思います。資金がないことには継続が難しいので、できる限り共感を持ってもらえるような情報発信の仕方が重要かなと思っています。

また、自宅を提供してくださっているということなのですけれども、そこの運営費用については、どのような状況か伺ってもいいですか。

○湘南１Leben

全くいただいていません。

電気代が大体6万くらい。水道代が大体10万くらいかかっています。

私は働けない状況なので、主人からも少しいただいていたのですけれど、月に5万円だけ会の方からいただいて、あとはすべてもうボロボロで、すべて犠牲にしています。

○坂田委員

公共の課題の担い手という意識づけを団体の皆さまも持っていただいて、個人での持ち出しとかではなく、公共の活動なのだというところを皆さまに思っていただくことと、今後法人化を考えているということですので、その面でも信用と信頼がすごく大事ですので、ぜひ法人化をしてしっかり運営していくスタイルを作っていただけたらと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。あと1人大丈夫そうですかいかがでしょうか。

○市川委員

譲渡会で募金活動であるとか、チャリティーグッズの販売なんかもされているということだったのですけれども、具体的にチャリティーグッズはどのようなものを販売されていますか。

○湘南１Leben
　手づくりでいただいたりしてるアクリルたわしや、キーホルダーを支援者の方から送ってきていただいたりとか、最近はボランティアさんの自腹でＴシャツやトレーナー、トートバックなどを作っていただき販売をしています。
　ただ、イベントが少ないので、売れ行きとかは微妙です。

○市川委員
　私もこれは猫なのですけれども、保護猫団体のお手伝いをさせていただいたことがあって、チャリティーグッズとかですと、里親に出した猫の写真を使ってチャリティカレンダーというやり方で、収益にも繋がってるってところがあって、500 部とか 600 部とか販売はできるし、あとは里親の方も買ってくださるケースが多いと思うので、実際に売れそうなものを里親さんも含めて、車に貼るようなステッカーとか、そういったものを検討されてもいいと思います。

○湘南１Leben
　カレンダーは実際、作りました。
　ですが、少し時期が遅かったのでなかなか売れ行きが。本当に普段お世話で、なかなか手がまわらず、それだけをやってくださる方がいたら心強いのですけれど、厳しい状況で間に合わないです。
　今、20 人前後ボランティアさんがいて、どなたかそういう方がいらっしゃったらもっと違うと思うのですけれども、やはり法人化しない限り、なかなか厳しい状況です。何かアドバイスなどいただけたらと思っています。

○事務局
　ありがとうございました。
　それでは続きまして、がんサバイバーのためのワークショップとコミュニティ作りにつきまして、ガーゼ帽子を縫う会様から説明していただきます。
　お願いいたします。

○ガーゼ帽子を縫う会
　ガーゼ帽子を縫う会の吉田と申します。
　今日はこのような機会をどうもありがとうございます。
　私たちは、がんサバイバーのためのワークショップとコミュニティ作りをいたします。
　がんサバイバーとは、がんと向き合いながら今生きている人のことを意味してい

ます。
残念ながら、がん細胞が見つかりました。ある日、突然がんの告知を受けたらそんなことを皆さま想像したことがあるでしょうか。
もしかしたらこの中にすでに経験されてる方もいらっしゃるかもしれません。
日常生活の中で、ある日突然がんになって、今まで当たり前に過ごしてきた毎日が続く、そう思っていた未来が描けなくなって、漠然とした不安や死を意識することで、その後の生活のイメージが掴めず孤独を感じる人が少なくないと感じています。
私は 41 歳で乳癌になりました。当時、一番最初に頭に浮かんだ言葉が死でした。
そして、これをどうやって子どもたちや親に伝えを、仕事は続けられるのか、治療費はどのくらいかかるのだろう。一体これからどうなってしまうか。考えても答えが見つからない漠然とした不安に胸が押しつぶされそうでした。
私のようにそんなふうに考える人は少なくないと感じています。
それでも時間だけは過ぎていき、頭の中の整理もつかないまま、様々な検査や手術、抗がん剤治療放射線治療など、治療が進んでいくことも少なくありません。
そのときに正しい情報が入手できたり、同じような体験をした人たちと話すことができて、このようなふうに思うのは私だけではない、そんなふうに感じることができ、少しずつ自分らしさを取り戻せるのではないかと考えています。
そこで私たちは、そのコミュニティづくりのサポートをしようと考えています。
開催場所は茅ヶ崎の南口から徒歩 8 分くらいのところにあるコミュニティカフェにじカフェさん。
ここは通りから少し奥に入っていて、とても静かな環境にあります。また、お部屋の中は木のぬくもりが感じられる作りになっていてもちろん、車椅子での使用も可能です。
ここで私たちは、午前と午後で二つのワークショップとコミュニティ作りをします。
そして別の部屋では、1 日を通して、がんを経験したピアサポーターが個別にじっくりお話をお伺いします。
午前中には抗癌剤治療などで、脱毛した時にかぶるガーゼ帽子を作りながら、コミュニティをつくり、がんという共通体験を持つ仲間と出会うことで、生活面での工夫や不安な気持ちのフォローができたり、また、ガーゼ帽子作りに夢中になって、病気であることを忘れるひとときになったり、孤独になりがちが、がん治療とうまく向き合うきっかけづくりをし、おしゃべりがあるだけでも、ガーゼ帽子をツールとして、その場にいることができて、周りの人たちの話を聞いていて、そんなふうに感じるのは自分だけではない。1 人ではないということに気づくことができると。
また、ガーゼ帽子づくりを継続したい。夢中になれることをしたいという方には、

引き続きガーゼ募集入会の活動に参加していただくことができます。

毎年クリスマスの時期、小児がんと向き合っている子どもたちにガーゼ帽子を手づくりして寄付をしています。

これは子どもたちとそのご家族に笑顔の時間が増えるように願い、がんサバイバーがエールを込めて作って今誰かの役に立てることで、がんになっても、社会貢献できる喜び、そして自身の役割を見出し、自分らしく生きる力になっています。

ここはパステルを使用して絵を描きパステルのやさしい色の癒され、日頃頑張っているご自身ご自身を認め、私時間の流れの中で、コミュニティ作りをします。

パステルを書くことは、高齢者や障がい者の脳の活性化に良いという科学的なデータも出ています。難しそうに見えるかもしれませんが、実はとても簡単で、そして上手に見えるような絵が書けます。

コットンを使って、初めに中央に書いてある黄色の縁を描くことからからはじめます。指先でのやさしいタッチが心のデトックスに繋がり、語りを聞きながら描いていると、自然に少しずつ癒されてきて、涙があふれてきた、そんな声も聞かれます。そして、1日を通して、医療者ではないピアサポーターががんにまつわる不安な気持ちや悩みを予約制で、個別にお伺いします。

これは医療的な相談ではありません。ピアとは、同等という意味の英語です。

ピアサポートとは、同じ境遇やよく似た体験を持つもの同士が支え合うということを意味しています。がんになると、治療のこと以外に、生活面での困りごとや、医療者に言うほどではないけど、もやもやしたことがあります。

でも、家族や近しい人だからこそ、心配をかけたくないと話せないことがあります。がんを体験した仲間になったら、話してみようかな。そんな気持ちになることがあります。

私達ピアの存在は、時に薬よりも良い処方せんになりうると考えています。お話をお伺いするのは、認定NPO法人、キャンサーネットジャパンの乳癌体験者コーディネーターという資格を持ったものが対応し、お部屋はワークショップをやっている奥の部屋で、プライバシーに配慮した環境で対応します。ここでは、ご本人だけではなく、家族や友人も一緒に対応することができます。ワークショップに参加することで、1人ではないと感じることができ、自分らしく過ごせる時間を通して、がんと共存しながら生きていかれるような環境づくりができます。コロナ禍でなかなかサバイバー同士が繋がることができませんでしたが、これを機会に繋がることもできます。また、がんサバイバーが前を向くことで、ご本人だけではなく、伝える家族や友人も安心することができます。

感染症予防対策は以下の通りで、がんの治療中の方もいるということを考えてマスクの着用と、手指消毒もお願いします。

ご自身で移動が困難な方への車椅子の送迎も可能とします。

広報はこちらの中にあります。
現在、2人に1人ががんになると言われています。もしがんになっても孤独にならず、その人らしく過ごせるような環境づくりをしていきたい。それが私たちの願いです。
以上です。ありがとうございました。

○事務局
それでは質疑応答に移ります山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長
はい、ありがとうございました。委員からの質問コメントがありましたらご発言ください。

○市川委員
ありがとうございました。
お金のことになってしまうのですけれども、物品費のところで、当日のパステルの絵を書くときのパステルが5名分と、それ以外の材料が3000円というふうな記載があるのですけれども、そうすると1人分が8000円。それが2日間なので1人延べ4000円くらいの感じになるのですかね。
それだけかかるというところの中で、実際の参加費がかなり安価かなっていう感じがするのですけれども、その辺りいかがですか。

○ガーゼ帽子を縫う会
ありがとうございます。
まず、パステルが多分少し高いなってお感じになる方が多いと思います。
このパステルというのは、粉にして描くので、どうしてもその吸い込みというところが心配になるのですけれども、パステルAPマークがあるものとそうでないパステルがあって無害であると安全に認めているというものを私たちは選ぼうと思っています。なので、多少高価になるかと思います。
あと、例えば赤と青まぜると紫になると思うのですが紫色は表現がとても難しくて、他の色、例えば、緑と黄色を合わせて黄緑とかそういうことはある程度できるのですが、そのあたりの様々な表現っていうのがやはり気になるので、私達の方ではこのパステルを選んでいます。
それから、参加費が500円というのは、安いかなと思うのですが、私たちが想定してるのはがんの治療中の方を想定しています。
がんの治療中というのはとてもお金がかかって、特に抗癌剤治療とかホルモン治

療というのは、本当にお金がかかって私もとても生活をしていく中で、その捻出が大変でした。
治療中にお仕事されてる方もとても多いのですが、中にはもしかしたらご主人の収入の中で、がん治療もされてる方がいて、そうすると、こういうところにお金を出すことを、少し気が引ける人もいるのではないかと考えています。
なので、参加費はできる限り抑えて、心の解放ができるといいのかなと思ってこの金額にさせていただいています。

○市川委員
ありがとうございます。よくわかりました。

○山田委員長
ありがとうございます。続いて質問、コメントいかがでしょうか。

○海野委員
実施する事業について、年2回程度ということで、これはもう日程とか、決めていらっしゃるのですか。

○ガーゼ帽子を縫う会
日程はまだ、まだ決まってないです。

○海野委員
わかりました。
今回補助の対象とする事業は年2回で他には何か事業などはやってらっしゃいますか。

○ガーゼ帽子を縫う会
定期的に毎月1回、場所は横浜になってしまうのですけれども、ガーゼ帽子を縫う会という活動をしています。そこはがん患者さんとかあとは高齢者の方がいらっしゃったりして、同じように気持ちを吐露しながら、またはがん患者さんの相談に対しては、正しい情報をお伝えするということをしながら、安全保障づくりをしたり、あとは本補助金で、ステップアップで一度開催しようと思っていたのがコロナで、取り止めに私の方でしたのですけれども、それはなぜかっていうとがん患者さんがやはり集まることがなかなか難しかったので、実はその間に、ここの活動は休止したのですけれども、オンラインに切り換えて、オンラインの中で今全国で繋がっています。全国での繋がりは月に1回、開催をしていて、私たち、やはりお仕事

をしながらなので、どうしてもそれくらいしか日程が組めなくて本当はもっとやれたらいいなというところではあります。

○海野委員
それから、収支予算書の中の団体収入があるのですが、特に会則の中には、そういった経費のところが出てないのですが、これはどういったところが出ていますか。

○ガーゼ帽子を縫う会
実はガーゼ帽子を縫う会のファンを作りたいと、これから会費なりを集めて、ファンの人を増やしていくということを目的にはしてるのですが、その中で、今日彼女が来てるチャリティTシャツとかを作ったり、あとはピンバッチですとか、トートバックとか、そういうのを外での啓発活動の中で販売をして、その中で捻出をしてるところがあります。
あとは私自分ががんサバイバー、がん患者なので、このがんの体験をなかなか外に発信する人って少ないのですよね。
こういうことを、一般の方に知ってもらって、このがんの検診って大事だよとか、あとはその医療者に向けてお話をさせていただく機会があって、そこで講演料ということをいただく場合があるので、それがここの活動費に入ったりしています。

○山田委員長
続いていかがでしょうか。

○坂田委員
ピアサポートという事業がすごくすてきだなと思っていて、本当に求められる活動ではないかと思っております。
私の知り合いでピアサポートを横浜でやっている仲間がいるのですけれど、やはり寄り添っていくということがすごく地域の中では必要で、1人ではないというところが非常に大事だなと思っています。
そんな意味で非常に大事な活動ではあるのですが、一方で団体の運営となると、資金面が非常に重要になってくると思うのです。いわゆる当事者目線のサポート事業になるとやはり寄付促進がすごく大事と思っていて、このパンフレットにも、ここに書いてあるのですけれど、他に特に何か特別やられていることがあったら、教えて欲しいです。

○ガーゼ帽子を縫う会
ありがとうございます。

特に寄付活動は具体的にはやってないです。今後頑張ります。
あと、ガーゼ帽子を作るということをやってるのですけれども、このコミュニティの中で作った場合に、もし必要だったらばご自身でもちろんお持ち帰りいただくのですが、そこの事業一段落したところで、私たち荷下ろし症候群というのですけれども、がんの治療を一生懸命ワーッと頑張ってきてそこでストンと少し気持ちがなえてしまう状態にある方が、このコミュニティ参加をするということを想定していて、そうするとそこででき上がったガーゼ帽子は、ご本人は必要ないのですよね。
その時に、会の方に戻してもらってっていうことも少し考えていて、そのガーゼ帽子はきちんとでき上がったものではないと販売には結びつかないのですけれども、そういったものも必要な方に安価で販売をして、材料費を除いたものを、活動費にという形に今考えています。

○坂田委員
物販もすごく必要だと思いますし、やはり協力者を募っていくことが重要かと。支えてもらった人が次へ、次の方にまた支えるという、繰り返しになると思いますので支えてもらった人が、今度は支える側になるというようなその循環が寄付活動にうまく乗ってくるといいなと、思いましたので、そこの仕組みをホームページ等の中でも作っていけるといいのかなと思いました。

○ガーゼ帽子を縫う会
よろしくありがとうございます。

○山田委員長
続いてあと１人、質問などいかがでしょうか。

○船山委員
発表ありがとうございました。
がんピアサポート事業は神奈川県でも、拡充が進んでいるのではないかとは思うのですが、先ほどのお話でやはり、なかなか事業開催するにしても人も足りないという中で、県や横の何か繋がりを利用する、活用するなどして、会活動を、もっと広く、回数を増やすことについては、どのようなふうな見解でいらっしゃいますか。

○ガーゼ帽子を縫う会
実は私もその体験者コーディネーターという認定を持っていて、病院の中でピアサポートをしたりとか、それでそのコーディネーターの仲間がたくさん全国に繋がっていて、その仲間たちとこういうことができるといいよねって、本当に一つのツ

ールなので、おしゃべりをすることで患者さんたちが繋がるっていうところにしています。

なので、実はピアサポート横浜というさっきお話したそういうところでも、このガーゼ帽子を縫う会をさせていただいて、そこでもできるようにしたりとか、あとは本当に私たちと同じような思いで活動してくださる方に対しては、思いの共有をした後で、ガーゼ帽子の縫い方だったりとか、進行の仕方ということを、今までコロナもあったので、オンライン上でお伝えして、実は支部ができ始めています。

北海道とか三重とか、あと埼玉と、栃木とどんどん繋がりができているので、私と同じことができる人がたくさん増えるといいなと思っています。

やはりおしゃべりをするというのは、対象ががん患者さんなので、言葉遣いだったりとか、対応の仕方というのは少し慎重にしなければならないなというのはあります。

一つの言葉で傷ついたりもするので、そういうところも考えながら、同じようなことができる人が増えていくといいなと思っています。

○山田委員長

ありがとうございます。それでは時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

以上で予定しておりました5事業の発表が終了しました。

それではこれより、総括質疑に移ります。

総括質疑とは、市民活動のさらなる発展、市民活動げんき基金補助事業の向上などを目的に、委員の皆さま、団体、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられることについて、ご意見をいただいたり、会場内で意見交換をするものとなっております。

終了の目安は、3時50分を考えております。

では、進行につきましては山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆さま、発表をどうもありがとうございました。

本当に勉強になりました。皆さまの強い実感がこもったご提案を聞かせていただくことで、学ぶことも大変多く、感じることも大変多い、非常に貴重かつ重要な経験をさせていただきました。まずはそのことにお礼を申し上げたいと思います。

ここからは、今司会からも説明がありました通り、皆さま方の日頃の経験を共有し合いましょう。仲間を作ることもできるでしょう。すでに、この会場の中に顔見

知りの人がいて、このようなことを一緒にやっていますといった報告でも結構です。それから、今日の空き時間にこのような雑談をして、このようなコラボをしようという打ち合わせをしましたなどでも結構です。日頃の思い、経験、または課題などについて、自由にご発言ご発表いただければと思います。

理想的には、ぜひ１団体につきお１人は何らかお話いただけると、実施者として大変嬉しく思っています。

○ふらっと南湖

私も犬を飼っていますが、犬の散歩をしていると、近所の人ともかわいいねとかすごく会話も弾むし、とても地域コミュニティには大事な存在だなと思っています。高齢になっても、わんちゃんがいることで、すごく頭がずっとはっきりしてるとか、そういうこともある一方で、わんちゃんが先に亡くなっちゃった友達がいて、すごくがっかりして、大丈夫かなっていうくらいの人もいて、もう次は飼わないとか言っていたのだけれども、そういう人をボランティアでつなぐこととかできたらいいのにと。

そういうつなぎをうまくやってシェアできたらいいなと。例えば今空き家が問題になってるけど、空き家を使ってうまく運営できるやさしい不動産屋さんが欲しいと思ってるとこなので、もしそういう不動産屋さんが増えたら、いろいろと空き家問題とかも、解決に向かうのではないかと思っているところです。

○山田委員長

何かアイデアや不動産系の情報とか、何かヒントになるようなところがあればお願いいたします。

○湘南１Leben

古民家利用は、実際、法人にならないと何もできない。

私もすごく考えていまして、保護犬カフェをやりたいと思っていて、今自分の家を提供して、すごいことになっているので、今後はクラウドファンディングなどで修繕していきたいなとは思ってるのですけれど、何をするにもやはり法人でないと厳しい状況ではあるのです。

市にも確か空き家利用の課があるのでそういったところも全部調べています。

不動産屋にも仲間がいるのですけれども、やはりそれには費用がかかってしまう、私たちは、今個人、任意団体なので、やはり法人でないと、何もできない現状ではあります。

私からもいいですか。

今、皆さまの様々なプレゼン聞いて、うちは結構、障がい者のボランティアさん

も多いです。筆談しながらやっています。
　誰でもできるボランティアなので、そういったところで少しコラボもできたらなと思っています。
　それと、今のお話したふらっと南湖さん、実際犬を連れて子どもの園に行きました。そういったところで、譲渡会もできたらいいなって思うのです。
　皆さまに少し当てはまるのではないかなと、うちは動物に関して、提供はできるので、そういうところは行っていけたらいいなと思っています。

○山田委員長
　ということで、不動産情報についてはいくつかの可能性やヒントがあると同時に、かなり難しいところもまだまだ社会の中にはあるということでした。お話の後半は、もっと繋がるところはたくさんあるから、そういったところで少し手探りとなるかもしれないけれど、活動を通じて少しずつ近づいていきましょうというメッセージでした。

○一般社団法人 4Hearts
　すべての団体がそうなのかなと思うのですけれど、やはり人材が足りない、お金が足りないところがあると思うのです。
　私も3年間もほぼ収益がゼロに近いような状況で活動してきて、やはりこれから事業していくために、少しビジネス寄りにやってきている感じにはなります。
　その中ですごく助かったと思うのがプロボノの方からご支援をいただいています。
　外部のNPOさんがありまして、そこに登録されている、スキルを提供するボランティアさんがいらっしゃるので、そういった方々に、一緒に担当してもらうことを今やってもらっています。
　特に図書館のイベントをパッケージ化させるために、例えばマーケティングしてもらったりとか、今やってもらっているものでは関心のある教授がいないかを調べてもらったりとか、そういうところを手伝っていただいているので、そういう活用ができるのではないかという気がしております。
　防災の提案について、私自身が阪神淡路大震災の被災者で、一番死者が多かった地域に住んでいたので、特に阪神大震災から防災のことが考えられるよう変わってきましたし、例えば3.11の時も、聴覚障がい者が、聞こえてる人に比べてすごく亡くなってしまった。防災無線が聞こえないので、これからやはり認知していかなきゃいけないことだと思っていますし、心理的な安全性を作ることによって、その障がいの当事者だったりとか、自分の意見を、自分の困ってることがなかなか言えない人が社会に出ていけるんではないかと思います。以上です。

○マザーアース茅ヶ崎

防災というのは、日常生活の中から生まれてくるものだと思っていて、特別なことだとは思ってません。

だからこそ女性の視点というのが非常に重要になってくるかなと考えております。

今現在、地域の中でいろいろやっていますが、基本的に支援金というかお金が非常にない。

皆さまボランティアでやっているっていう現状で、要支援者の支援とか、その他やることは山のようにあるのです。

もし、被災した時の避難所運営の仕方とか、そういうのも全部自分たちで考えていろいろやっています。

それに対してのやはり、助成金が欲しいというのが本当の気持ちです。

どのような団体とでも、全部繋がっていけるのが防災だと思っています。私もわんちゃんの避難所について、犬をなかなか連れて行かれないとか、ペットに関する避難所の話し合いとか、ワンちゃんたちをどうやって避難させるかっていうような、会議を開いたりとか、とにかくいくつかの段階に分けて、一つ一つしっかりと詰めていくっていうことが防災だと思っているので、行き当たりばったりではなく、全部大きなビジョンを持って、ことを進めていかないときちっとしたものにならない。

なので、できれば皆さまと一緒に繋がって、きちっとしたものにしていきたいなと考えております。

○山田委員長

一般社団法人 4Hearts さんのご発言にもあったように、具体的な目標が見つかってくると、プロボノなど専門家支援の重要性がますます必要になってくるところは、確かに共通点があるかと思います。

○ガーゼ帽子を縫う会

防災のところで、実は東北の震災の時に、がん患者さんたちがすごく困ったことがあって、それは家屋が崩れたときに、まず避難するではないですか。その時に、アピアランスというウィッグを持って出れないっていう状態になったときに、私たち服を着て外に出るではないですか。脱毛した時にやはり髪の毛がないと周りの人の目も気になるし、私にとっては鎧みたいなものなのです。

それから、予防の意味もあって、毎日のお薬があるのですけれども、それを持って逃げれないのはもちろんですけれども、なかなか病院もうまく機能せず、お薬が入ってこず、お薬を飲み続けることができなかった。

本当に大変な状況になったがん患者さんがたくさんいらっしゃるのです。

なので、その防災の部分で、その時はワンワールドプロジェクトと言ったか少し

忘れちゃったのですけれど、そういうボランティアの団体が全国に呼びかけて、もう使ってないウィッグを集めたりとかあとは帽子を集めたりとか、そうしてみんなでこう支援をしたのですけれども、そういうのも日常的に防災の中で組み入れてもらえるといいなと思っていて、実は私も自分が毎日飲まなきゃいけないお薬を飲んでいた時に震災のことがあったので、少し多めにお薬を欲しいなんて、何かあったときに、命を続けるためにって思ったりしたので、そういうところでうまく機能するといいというのはあります。

あとは、私たちみんな生きていく中でそれぞれが、みんないいところを持ってると思うのです。

例えば、散歩する地図がよくわかっている人とか、手先が器用な人とか、様々な才能があって、でもがん患者さんになるとみんなに迷惑かけてるみたいなふうに思いがちなので、そうではなくって、その人その人それぞれが自分の持っているものをうまく生かせる世の中になるといいなと思っていて、実はさっきプロボノというお話が出たのですけれども、私たちの団体でも、例えばホームページを作るのはすごく苦手とか、デザインするのが苦手なんていうときにそういうことをやっていた人に声をかけて、お金が払えないので、プロボノでお願いみたいな感じで、そういうところで、団体も皆さまそうですし、お役所の方でもそうですし、社会全体でそういうところの個性を生かせるような働きができるといいのかなと思いました。

○山田委員長

まだもう少し時間があるので、ぜひ発言をされたいことがあればお願いします。

○ふらっと南湖

せっかく大学の先生がいらっしゃいますので、学生さんとの繋がりを、私たちはどう持ったらいいか、繋がり方について教えて頂けますでしょうか。学校は少しハードルが高いのかなと。

○原田委員

まずはボランティアセンターがあるので、そこに登録してもらっていて、それともう一つは教員とか学生が個人的に知り合ったNPOとか団体と、ゼミとかを通じて自主的に関わるというのはあります。ボランティアセンターに登録をしていただいて、何回か通っていただくとおそらくボランティアセンターのコーディネーターに顔を覚えてもらってると、何かあった時紹介してもらえるかもしれません。

○山田委員長

文教大学には地域連携課というセクションがあって、そこが市民活動の皆さまと

の窓口、接点になっています。そこを訪ねていただけると。
今大学は、皆さまご存知だと思いますが、サービスラーニングをキーワードに体験的学びを重視しています。協働や応援がやりやすい形にはなっています。
そうしましたら、予定の時刻になりましたので、総括質疑を終了させていただきたいと思います。
皆さま、ご発言ありがとうございました。

○事務局
以上で本日のプレゼンテーションについてはすべて終了という形になります。
改めて、山田委員長より閉会のご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山田委員長
皆さまお疲れ様でした。
午後の時間にも、様々な活動のご経験ですとか、情報の共有ができました。これは、プレゼンテーションという機会を超えて、連携の仕組みに繋がっていたのではないかなと感じました。
また、オンラインではなく対面形式でのこのような機会は、隣の方と相談したり、帰り際に様々な情報交換ができたりします。そういう意味でも、このプレゼンテーションの機会というのは、皆さまのチャンスになったのではないかと感じます。
そして、最後の総括質疑でもいろいろご発言いただきましたように、そもそも市民活動は一体どういうところを目指すべきかという問いは、午前のスタート支援の部の皆さまの感覚や思いとは少し異なっていたように思います。つまり、午後のステップアップ支援の部の皆さまの感想は、やはりステップアップが感じられたという意味です。大変興味深いところでした。
午前中の総括質疑では、自分たちの活動をよりよく立ち上げ、充実させるるために協力をしたい、応援をし合いたいという意見が多く出ていました。しかし、午後のこの時間は、どのようにすれば悩みや壁を乗り越えていけるだろうかといったように、午前とは少し違った議論の展開がありました。その意味では、ステップアップ支援は、確実に皆さまの力になっている、こういうような支援事業によって皆さまの活動が充実に向かっているというところを理解することができました。
様々な情報をお伝えいただきましてありがとうございました。
今日の議論で委員会が引き受けなければならないところは、市民の気づきの実践や実行を多面的に支えるような繋がりの支援でした。皆さま共通に悩んで課題と感じていらっしゃるところだと思います。
とりわけ自治体との繋がり、企業との繋がり、市民間の繋がりをこれからどのよ

うに委員会として支えていくか、事務局と引き続き議論をして参りたいと感じました。

すぐに答えは出ないかもしれませんけれども、そういうことを考え続けていくというのはとても大事だと実感しました。

それでは、長時間になりましたけれども、ご協力、発表について、もう一度感謝を申し上げまして、まとめとさせていただきます。

○事務局

本日はどうもありがとうございました。以上をもちまして令和5年度実施市民活動推進基金補助事業公開プレゼンテーションを閉会いたします。

冒頭でもご説明申し上げましたが評価結果につきましては、改めて皆さまにご案内差し上げます。

また市民活動推進基金の募金箱がございますのでご協力いただけると幸いです。

最後に、茅ヶ崎市では、市民活動の支援を、後ろにいらっしゃる市民活動サポートセンターの皆さまと一緒に行っております。

今ちょうど市役所1階のロビーで、市民活動のパネル展示を行っておりますので、ぜひ、皆さま帰りがけに御覧になっていただければと思います。

本日は長時間にわたりご参加いただきまして、まことにありがとうございました。